



追手門学院大学
笑学研究所年報

第 4 号



2018 年度

追手門学院大学笑学研究所

目 次

活動報告

川西市生涯学習短期大学 レフネック オープン講座〈大阪の笑い文化〉…… 広瀬 依子	1
第2回「思わず笑顔になるコンテスト」について …………… 真銅 正宏	5
スーパーサイエンスハイスクール・福島高校の皆さんを迎えて …………… 高垣 伸博	11
門真市大学教員リレー講座「人と社会を元気にする笑い－ユーモアの心理学」… 浦 光博	17
「満員御礼」——「落語鑑賞会」を振り返って …………… 木村 英樹	21

講演記録

ミニ公開講座～笑う門には福来る“話べたさん”のためのコミュカアップ塾 … 広瀬 依子	27
--	----

研究報告

特色ある研究 笑都大阪の笑いは健在か？現代人が「笑う」形式の研究 ～追手門学院大学生の「笑い」に関する意識調査の結果と分析～ …………… 高垣 伸博	31
2018年度笑学研究所活動記録 ……………	57
2018年度笑学研究所所員および研究員一覧 ……………	58
追手門学院大学笑学研究所規程	

川西市生涯学習短期大学 レフネック オープン講座 〈大阪の笑い文化〉

追手門学院大学笑学研究所所員、国際教養学部講師 広瀬 依子

兵庫県川西市によって開かれている川西市生涯学習短期大学レフネックは、1994年にスタートした。受講者は川西市在住・在勤者。短期大学の名の通り、2年間にわたって専門家によるさまざまな講座を受けることができる。

毎年2学科が設けられるが、そのほかにも課外講座、学長講話などプログラムは多彩。そのうちのひとつで、受講生以外も参加できる〈オープン講座〉の2018年度講師を、所員の広瀬依子が担当した。

大テーマは〈大阪の笑い文化〉。大阪といえば笑いというイメージは広く普及している。大阪人の会話には笑いの要素があり、笑芸も盛んだ。なぜそのような特徴を備えるようになったのか。大阪と笑いとの関連について考察するのがねらいである。2018年8月1日、8日、22日、29日の全4回を、毎回小テーマに添って、映像も交えながら解説した。会場は同市のアステホールで、受講者は約180名であった。

第1回目（8月1日）のテーマは〈笑いを生み出した大阪の地域性〉。商売のまちとして発展してきた大阪には、コミュニケーションを大切にする気風が生まれた。相手に親しみを持ってもらったり、場の雰囲気をはぐすには、笑いは効果的である。大阪のまちの成り立ちに触れるとともに、地域性について解説を行った。

第2回目（8月8日）のテーマは〈大阪のことばと笑い〉。大阪人はことばの数が多いとよく言われる。これも大阪が会話を重視するコミュニケーション都市であることと関連している。また、直接的な表現に加えて、省略や比喩、ことば遊び等も発達していった。まちとことばとの関わりについて重点的に考察した。

第3回目（8月22日）のテーマは〈大阪の笑芸①落語〉。大阪を代表する芸能のひとつである上方落語に焦点をあてた。上方落語は会話が多く、ハメモノと呼ばれるお囃子も使われる等、江戸落語に比べて賑やかである。また、貧しくても暗くならず、逆にその境遇を笑いとばす登場人物がたくさんいる。大阪の観客はそのようなたくましい登場人物に共感し、爆笑物を好むという特徴について解説した。

第4回目（8月29日）のテーマは〈大阪の笑芸②漫才／喜劇〉。漫才は一見すると2人の世間話



である。それを話芸として磨きぬいていったのは、会話上手の大阪という背景が大きく関係している。喜劇は各地で見られるが、喜劇専門の劇団が長く活動を続けているのは大阪である。この喜劇はもちろん笑いを主体としているが、人情に訴える場面をところどころに入れることで、より笑いを大きくするという技術にも長けている。大阪の都市性を体現したような表現方法であることを考察した。

講座の開催は平日昼間とあって、中高年の受講者が大部分を占めていた。終了後には毎回熱のこもった質問の手が上がり、笑いへの興味と関心の高さがうかがえた。



オープン講座の様子



オープン講座①

大阪の笑い文化

【ねらい】

大阪といえば笑い——そんなイメージは広く普及しています。人びとの会話には笑いが散りばめられ、落語や漫才等の笑芸も盛んです。それには、大阪のまちの成り立ちや環境が大きく関連しています。大阪ではなぜ笑いが重視されてきたのでしょうか。また、笑いほどのような文化を生み出してきたのでしょうか。大阪の笑い文化との関連について考察、解説します。

	内 容	実 施 日	講 師
①	笑いを生み出した大阪の地域性 大阪は近世以来、自然のまちとして発展してきました。人と人が顔を合わせて行う形態の高層では、コミュニケーションが欠かせません。相手の状況に応じて対応を求められるからです。コミュニケーションを円滑に進めるために、笑いはずっとついでです。笑うことは双方の距離を縮め、その場を和やかにします。大阪の歴史に触れながら、まちの成り立ちと地域性について解説します。	8月1日(水) 14:00～15:30	追手門学院大学 笑学研究所 客員研究員 広瀬 依子
②	大阪のことばと笑い ことばはコミュニケーションの重要な手段です。コミュニケーション都市・大阪では必然的にことばの数が多くなりました。その結果、直線的な表現だけでなく、ことば遊びも発達していきました。それらは笑いの基を生む高地になりました。また、自分が一歩引くことで笑いをとる場合もあります。大阪のことばと笑いとはどのように関連しているのかを考察します。	8月8日(水) 14:00～15:30	
③	大阪の笑芸①落語 上方落語は大阪を代表する芸能のひとつです。大阪の落語の祖は、江戸時代に生誕(生玉)神社にあらわれた米澤彦八です。当初は野外で演じられていたことで、上方落語は独自の特徴を備えていきました。笑い会話の多さ、ハメモノと厚ばれるお獅子等です。また、決して裕福ではないけれど、たくましく暮らす庶民たちが多く登場します。時には自分たちの境遇をおもしろがるほどです。映像を使用しながら、上方落語の特徴・魅力を探ります。	8月22日(水) 14:00～15:30	
④	大阪の笑芸②漫才／喜劇 「大阪人が2人寄れば漫才になる」とは、よく言われることばです。漫才は当初は音楽を伴っていましたが、やがて世間話に思える会話を筋路にまで磨き上げていきました。その基盤には、大阪人の会話上手があります。また、大阪では喜劇も発達しています。赤口りときせる人懐の場面を入れることで、笑いをさらに大きくすることもあります。映像を使用しながら、漫才と喜劇の特徴・魅力を探ります。	8月29日(水) 14:00～15:30	

講師プロフィール

■広瀬 依子 (ひろせ よりこ) 追手門学院大学 笑学研究所客員研究員
(専 門) 上方芸能(古典芸能・大衆芸能・現代芸能)
(著 書) 『上方芸能事典』(岩波書店 2008年共著)

募集案内 一般の方は、往復ハガキにてお申込みください(レフネック学生は、別途案内します)

- *受付期間…平成30年6月30日(土)～7月10日(火)必着
- *申込み…往復ハガキに①講座名、②住所、③氏名(フリガナ)、④電話番号と返信用に郵便番号・住所・氏名を書き、〒666-0033 栄町25番1号 生涯学習短期大学へ。1人1通(重複申込みは無効)
- *募集定員…200名(市内在住・在勤者100名、レフネック学生100名)定員超過の場合は抽選
- *受講料…1,000円(講座の初回に徴収します)
- *問合せ…川西市生涯学習短期大学 TEL 757-8481

24

オープン講座概要チラシ (肩書は2018年2月時点)

第2回「思わず笑顔になるコンテスト」について

追手門学院大学笑学研究所所員、副学長 真銅 正宏

昨年度、「青が散る」Award を発展的に継承して創設された「思わず笑顔になる文章コンテスト」が、本年度すなわち2018年度、さらに内容を充実すべく装いを新たにしました。回数こそ継承し第2回としましたが、これまでの「作文・エッセイの部」と「つぶやき」の部に「写真の部」を加え、三部から多角的に「笑顔」を追究する賞となりました。

資料2に掲げました詳細のとおり、本年度は、合計8356作品（昨年度7891作品）という、史上最多であった昨年をも上回る実に多くの応募がありました。

応募作品につきましても、いずれの部にも、文字通り「思わず」微笑んでしまうような心温まる作品が多く集まり、嬉しい悲鳴ながら、優秀作品の選定には苦労するような量と質でした。今年度も、本学のライティングセンターおよび当笑学研究所の全面的な協力体制の下、図書館を中心に、厳正な審査が行われました。

名誉審査委員長には、昨年同様、本学4期卒業生で、通天閣観光（株）代表取締役社長の西上雅章氏、名誉顧問には、これも昨年同様、笑学研究所設立にご尽力された、前学長の坂井東洋男氏に引き続きご就任いただいております。お二人は、我が笑学研究所の特別顧問でもあります。第一次審査につきましては、例年通り図書館職員で行いましたが、今年は新たな試みがありました。今年度は、SJ（student job staff）すなわち、学生の力も借りて行った点です。図書館 SJ には「つぶやきの部」、ライティングセンター SJ には「作文・エッセイの部」のダブルチェックをお願いしました。これにより、学生たちに、大学の仕事の多様さを知ってもらえればと思います。

第二次審査および最終審査は、先にも少し触れましたとおり、追手門学院大学に設置されているライティングセンターの担当教員および当笑学研究所の所員により行われました。いずれもご多忙のなかでの献身的なご尽力でした。最終審査結果は、資料3のとおりです。表彰式は、2018年1月26日（土）13時から15時までの予定で、通天閣のSTUDIO 210にて開催されます。

笑学研究所は、大阪に所在する追手門学院大学にあって、大阪らしさと、その笑いの文化の伝統を、大学という場で進展させることの中心的役割を担っています。

この「思わず笑顔になるコンテスト」もこの追手門学院大学の笑いをめぐる活動の重要な一つです。このコンテストと笑学研究所は、追手門学院大学のミッションを共有しているわけです。応募作品を読み、また写真を眺めて、よりいっそう多くの人が「思わず笑顔になる」ことを心から願っております。

2018年1月11日



学校法人追手門学院創立130周年記念事業

追手門学院大学

通天閣観光(株)

たくさんの 「笑顔作品」を 募集します

第2回 思わず笑顔になるコンテスト

おいでい
追大と企業がプロデュースする
作文・写真のコンテストです。

主催: 追手門学院大学 共催: 通天閣

後援: HITACHI Inspire the Next FUJITSU
追手門学院校友会山桜会 追手門学院大学校友会

スマホ
からでも
簡単応募!



テーマ 「読めば 見れば みんながしあわせになる」

募集作品 作文・エッセイ(郵送・FAX可) / つぶやき:140字以内(郵送・FAX可) / 笑顔になる写真(スマートフォン・web)

対象 小中高・大学生・一般 募集期間 2018年9月30日まで

主催:追手門学院大学 共催:通天閣観光株式会社
後援:株式会社日立製作所、富士通株式会社、追手門学院校友会山桜会、追手門学院大学校友会

資料 1-1 【チラシ1面】 第2回思わず笑顔になるコンテスト



思わず笑顔になるコンテスト 募集要項

テーマ▶「読めば 見れば みんながしあわせになる」

募集作品▶

1. 作文・エッセイ:原稿用紙400～600字以内(郵送・FAX可)
2. つぶやき:140字以内(郵送・FAX可)
3. 笑顔になる写真:(スマートフォン・web) 40字以内

※パソコンの場合、一行20字に設定すること
ホームページにて専用原稿用紙をダウンロードできます
※複数作品を応募される場合には作品数がかかるよう明記をしてください
※未発表のオリジナルの作品に限ります
※応募原稿は返却いたしません

対象▶

小・中・高校生、大学生
(予備校生、専門学校生、短大生 などを含む)、一般

募集期間▶

2018年9月30日まで

応募方法

スマホ: 表面のQRコードから応募フォームにアクセスし、
必要事項を記入して、ご応募ください

郵送・FAX: 応募用紙(本学ホームページにも掲載)に必要事項を記入し、
下記までご郵送ください。E-mailでもご応募いただけます
(メール本文に作品と応募用紙必要事項をご入力ください。
セキュリティ上添付ファイルでは受付しません。)

応募/お問い合わせ

追手門学院大学図書館
思わず笑顔になるコンテスト係

〒567-8502 大阪府茨木市西安威2丁目1番15号
TEL:072-641-9638 FAX:072-643-9786
E-mail:egao@otemon.ac.jp
<https://www.ccile.otemon.ac.jp/egao/>

賞

最優秀作品賞 ▶▶ 賞状、および副賞(5万円相当)、後援企業からの副賞

優秀作品賞 ▶▶ 賞状、および副賞(2万円相当)、後援企業からの副賞

通天閣賞 ▶▶ 賞状、および副賞(1万5千円相当)、後援企業からの副賞

審査員特別作品賞 ▶▶ 賞状、および副賞(1万円相当)

佳作 ▶▶ 賞状、および副賞(5千円相当)

名誉審査委員長 西上雅章 (通天閣観光(株)代表取締役社長:本学4期生)

名誉顧問 坂井東洋男 (本学前学長)

審査員 本学小・中・高・大学教員 など

審査結果発表 2018年12月中旬
思わず笑顔になるコンテストのホームページ上で行うとともに、入賞者へ通知いたします

表彰式 2019年1月26日(土)大阪通天閣STUDIO210(つうてん)

個人情報の取り扱いについて

応募者の個人情報につきましては厳重に管理をし、本企画で使用する場合、追手門学院大学からの広報物をお送りする場合があります
入賞作品の著作権は本学に帰属し、冊子・ホームページなどで公表予定





思わず笑顔になるコンテスト 応募用紙 該当するものにボールペンで☑印をつけ、氏名・住所などをご記入ください

【テーマ】「読めば 笑れば みんながしあわせになる」(楽しいこと・ほほえましいこと・ユウモアあふれること など) 【再応募】 昨年応募した内容で再応募する

【応募作品】 1. 作文・エッセイ(400～600字以内) 2. つぶやき(140字以内)

【応募区分】 A. 進手門学院関係者(在校生・卒業生) B. 左記以外

1. 小学生 2. 中学生 3. 高校生 4. 大学生(予備校、専門学校含む) 5. 一般

【認知媒体】 1. チラシ 2. ポスター 3. ホームページ 4. 郵便物 5. 学校の課題 6. その他()

しあわせ 氏名 性別 職業 住所 〒 E-mail

電話 FAX 学部 () 学年 () 年 () 月 () 日 学校名 () 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・専門学校・専門学校・短大・大学・大学院

在学中の方はご記入ください

主催：進手門学院大学 共催：通天閣観光株式会社 後援：日立製作所株式会社・富士通株式会社・進手門学院校友会・山梨県会・進手門学院大学校友会

650 400 150 250円(税別)

『(笑)』 『(笑)』

資料 1-3 【チラシ3面】 応募用紙



第1回 最優秀作品賞受賞作品

【作文・エッセイの部】

じんのパチパチ

(西宮市立南甲子園小学校2年)

南 七帆

2さいの弟のじんの目がはれました。たくさんのめあにがついていて、しんばいになりました。びょういんに行って、目ぐすりをもらいました。目ぐすりはきらいです。だから、だっこしてしつかりおさえつけました。目ぐすりをさしてすぐにお父さんが、「パチパチして」

と言ったら目じゃなくて手をパチパチしていました。それを見たわたしは、かわいいなと思いました。そのときかぞくは大わらいしていました。

じんは、なんでわらっているんだろうと、ふしぎなかおをしていました。つぎの日も、目をパチパチしないで手をパチパチしていました。まいにち手をパチパチしていると、目はきれいになりました。わたしはよかつたなあんとあんしんしました。

【つぶやきの部】

『平和な晩ご飯』

(近手門学院高等学校2年)

山本 優汰

いつもの家族全員での晩ご飯。

その日の料理はとんかつだった。

私は塩こしょうを手を取った。

衝撃だった。

賞味期限が一九九八年一月二日だった。

それはもはや我が家の化石である。

しかし、母が「新品があるで！」と教えてくれた。

私は一安心してそれを手に取った。

その賞味期限は二〇〇五年十月だった。



学校法人追手門学院創立130周年記念事業

追手門学院大学 通天閣観光株

第2回 思わず笑顔になるコンテスト

応募総数のご報告

平素は、追手門学院大学の活動に、ご理解とご協力を賜りまことにありがとうございます。さて、第2回思わず笑顔になるコンテストの応募総数につきまして、下記のとおり報告いたします。ご協力くださいました皆様に、心より御礼申し上げます。

追手門学院大学図書館・情報メディア部長 三上剛史

応募総数 第2回：8,356 作品

つぶやきの部	
小学校	143
中学校	664
高等学校	1,541
大学・大学院（※）	266
一般	1,005
合計	3,619

※短期大学・専門学校を含みます。

作文・エッセイの部	
小学校	855
中学校	960
高等学校	1,994
大学・大学院（※）	56
一般	118
合計	3,983

※短期大学・専門学校を含みます。

写真の部	
合計	754

二次審査：11月中旬 受賞者発表は12月中旬を予定しています。

2017年度応募総数・・・・・・・・・7,891作品
 2016年度応募総数・・・・・・・・・6,908作品
 2015年度応募総数・・・・・・・・・6,620作品
 2014年度応募総数・・・・・・・・・4,766作品
 2013年度応募総数・・・・・・・・・5,114作品

2013～2016年度は、文章表現コンクール「青が散る」Awardとして実施しました。

主催 追手門学院大学 共催 通天閣観光株式会社
 協賛 株式会社白鳥製作所、富士通株式会社、田村製糖株式会社、追手門学院校友会、追手門学院大学校友会

Copyright © 2018 OtomonGakuinUniversity. All Rights Reserved.

資料2 第2回応募総数（報告）

活動報告

スーパーサイエンスハイスクール・福島高校の皆さんを迎えて

追手門学院大学笑学研究所所長、国際教養学部教授 高垣 伸博

2018年5月28日 笑学研究所に1通のメールが届いた。

「突然のメールにて失礼いたします。私は福島県立福島高等学校2年の〇〇〇〇と申します。私の高校はSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受け、その活動として様々なテーマに分かれて課題研究をしています。私たちの班は「笑い」をキーワードにし・・・（中略）・・・つきましては、10月24日、25日に研修旅行で大阪方面に行くため、先生に空いているお時間があれば、笑学研究所で直接笑いについての研修をさせていただきたいと思っております。お忙しいところ申し訳ございませんが、ご返事いただけると幸いです。」という内容であった。

何度かのメールのやり取りを経て「皆さんの研究課題・研究内容を発表していただいたうえで、疑問等を一緒に考えてゆく勉強会にしましょう」ということになった。

果たして、3班20名が10月24日、25日の両日に分かれて笑学研究所に訪れた。

そもそもスーパーサイエンスハイスクールとは何ぞや。ご存知の方も多いただろうが、文部科学省のホームページには「文部科学省では、将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、先進的な理数教育を実施する高等学校等を『スーパーサイエンスハイスクール』として指定し、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等を平成14年度より支援しています。」と記載されている。

その指定校である福島高等学校の面々が研修先として笑学研究所を見つけ出したのである。

課題研究には多くのカテゴリーが設定されており、その中のひとつ「人間とエネルギー」、さらにキーワードの「笑い」を選択した生徒が3つのグループに分かれて研究に取り組み、学年末の3月に校内で成果を発表するという運びだそうである。

ここに、各班の掲げた課題研究のテーマと課題、また勉強会後の研修会報告を掲載することで、勉強会報告とさせていただく。

2018年10月24日（水）13:00～14:30 於：高垣研究室（5706）

A・B班 12名 参加所員：浦光博 高垣伸博 事務：中川啓子



A 班 テーマ 「グローバル化が進む中で、笑いをどうとらえるか？」

「課題発表」

- ・外国人と日本人の笑いのとらえ方の違いによるすれ違い。
インバウンドが多くなると外国人とのコミュニケーションが増える。その際の文化の違いによる笑いのとらえ方は？
- ・日本の中でも 東京・大阪の笑いの違いがある。
東京は形式的な笑いが多く（型にはまっている）社会風刺が混じっており、自分も周りも傷つけない笑いであると考え。自分をさらけ出さず笑いで自分を守る。しかし大阪は笑いに貪欲で厳しく、力社会の中で人間関係を築くのに笑いは必要不可欠である。昔から商人文化で陽気である。
中国・アメリカ・イギリス・オーストラリアの笑いの特徴を調べた。

「研修報告」

カテゴリー 人間のエネルギー

キーワード 笑い

班名 Laugh and peace

班員 野間悠佑、三浦綺華、渡部水彩、吉岡佑、西塚海翔、渡部真子

1 研修先

追手門学院大学

2 研修先の選定理由

設立して間もないが、笑学研究所があるということで、笑いについての意見交換や、質疑応答を通して笑いについての理解を深めるとともに、様々な考え方をできるようにする。

3 研修先でわかったこと・学んだこと・調べたこと・得られた視点

不一致解消する際に、笑いというものが発生する。ずれを解消するためには、相手を理解することが必要。理解すればするほど、面白くなる。笑いは、相手に敵意がないことを示し、コミュニケーションを円滑にするための一つのツールである。

4 課題研究とのつながり

外国人とのコミュニケーションを円滑にするために笑いを使う。笑いのとらえ方は国・地域によって違うため、相手のことを理解することが必要である。

5 感想

野間悠佑 おかしいから笑うか、笑うからおかしいのか、その考え方に感動した。

三浦綺華 笑いについて興味深い話を聞くことができ、これからの研究に役立てていきたい。

渡部水彩 動作的にとらえがちだったが、感情の一種であるという新しい定義を進言され、イメージがより明確になった。テーマの根本をみなおすことができた。



吉岡佑 年代によっても、笑いに差があるということが分かった。

西塚海翔 不一致解消論という考え方が学べて、さらに深めていきたい。

渡部真子 有意義な時間を過ごすことができた。

B 班 テーマ「笑いについて」パワーポイントにて発表

「課題発表」

- ・年代の違う人とのコミュニケーションがうまくいかない。
年代ごとに笑いのツボが違うから情報共有のみのコミュニケーションになる。
よいコミュニケーションには感情共有が必要であり、それが笑いだと考える。
年代によって経験、知識などが違うので、年代の差が生まれる。
高齢になるほど好みをはっきり分かれてくる。
- ・年代による笑いのツボがあるのか。

「研修報告」

カテゴリー 人間のエネルギー

キーワード 笑い

班名 一笑懸命

班員 伊藤のぞみ 山崎紗佳 佐藤愛美 林帆夏 吉田空右 長谷川笑花 佐藤桃子

1 研修先

10月24日、追手門学院大学笑学研究所を訪問し、高垣伸博先生、浦光博先生と意見交換会を行いました。

2 研修先の選定理由

私たちは笑いについて研究しており、追手門大学の笑学研究所では笑いについて研究をしているため、私たちの研究の方向性と一致していたから。

3 研修先でわかったこと・学んだこと・調べたこと・得られた視点

立場の違いなどから生まれる相手間との「ズレ」が解消した時に緊張が緩和され、無意識のうちに安心することから生まれる笑い「不一致解消理論」、おかしいから笑うのではなく、笑うからおかしいという理論、女子の笑いは仲間意識が、男子は必要性がある場面（仕事上）で笑うとされているということが分かった。

4 課題研究とのつながり

ズレの解消時に笑いが生まれるということから、年代間の認識や知識のズレを調べ、またズレの解消の方法を調べればよいことが分かった。

また、男女の笑いの違いが明確になったことから年代間だけでなく男女間の笑いのズレもわけて考える必要があることが分かった。



5 感想

お話を聞く中で特に印象が残ったのは「おかしいから笑うのではなく笑うからおかしい」ということです。無理にでも笑顔を作ることによって自然とおかしいという感情が湧き上がってくるということに驚きました。(愛美)

「物事がおかしいから笑うのではなく、笑うからおかしいと感じる」という考え方には衝撃を受けました。おかしさは後からやってくるという普通とは違った考えを聞き、視野を広げることができました。私たちの班は、過ごしてきた環境、今までの経験や知識の差によって、物事の受け止め方や感じ方が違うため、年代ごとに笑いの傾向が変わってくるという仮説を立てていましたが、笑学研究所の方の研究と重なる部分があり、より理解を深めることができました。また、研究所の方から「笑いのツボは個人で変わってくるため、笑いの傾向とツボは分けたほうが良い」とアドバイスをいただきました。それを踏まえたくて今後の展開をしていきたいと思いません。(帆夏)

今回笑学研究所の所長の方々と意見交換会をして、新しい視点を得られ、私たちの研究に対するアドバイスもいただきました。様々な意見の中でも特に印象に残ったのは「物事がおかしいから笑うのではなく、笑うからおかしい」ということです。私は逆の考え方もあるのだと分かり、ハッとさせられました。(桃子)

「不一致解消理論」や「感情が出るからその事柄がどのような物かわかる」など、考えもつかなかった新しい理論に感動しました。この研修で視野が広がったと思います。鉛筆をくわえて本を読むとさらに面白く感じるというのもおもしろかったです。(のぞみ)

不一致解消理論や、笑うからおかしいという笑いの理論を知ることができてよかったです。また、年代が違って笑いをユーモアな心を持つことの重要性にも気づかされました。(紗佳)

10月25日(木) 13:00~14:30 於:高垣研究室(5706)

C班 7名 参加所員:木村英樹 高垣伸博 浦 広瀬光博 広瀬頼子 事務:中川啓子

C班 テーマ「年を重ねると笑う機会が減るといのが問題ではないか」

気になるCMがある。「大人グリコ」の中で「子供は1日400回笑い、大人は1日15回になる」と謳っている。これがきっかけになった。

「課題発表」

- ・笑いは増やせばいいのか。
- ・現代の若者の笑いは「いじる」「いじられる」「攻撃的な笑い」面白ければ何でもOKなのか。
- ・仲間意識による閉塞感 ここで笑わなければいけないという思い。それには、ただ笑いを増やすだけではなく、適切な笑いが必要。



笑う側と笑われる側が互いに良い気分になることが適切な笑いだと考える。

そのためには共通の話題や趣味を持ち関係を保つ。そのためには夢・目標を持ち、関係性を保てる人を探す必要があると考える。

「研修報告」

カテゴリー 人間のエネルギー

キーワード 笑い

班名 きりのかなた

班員 石塚凱晴、松元康志、高橋孝太、菅野佑志、菅野航平、吉田可奈、海老名帆夏

1 研修先

追手門学院大学

2 研修先の選定理由

コミュニケーションとしての笑いについて専門的に研究しているから。

3 研修先でわかったこと・学んだこと・調べたこと・得られた視点

笑い与健康はイコールで結ぶことのできる関係ではなく、心身ともに健康であることによって効果的なものが生まれ、そこで初めて笑いという動作が発生する。

また、日本国内で「笑い」が異なっている。江戸時代の江戸にいる武士は、「笑う」という行為を下品だと認識していた。反対に、商売が盛んにおこなわれていた関西では、なるべく安く買うために「笑い」を通じて、コミュニケーションをとっていた。商人にとって「笑い」とは商売と隣接したものだ。これらが現代に反映しているという考えがある。また、関東では最近SNSやメールなどのやり取りの中で冗談じみた発言をするときには（笑）や「w」語尾につくことが多いが、関西では冗談じみたことでも（笑）や「w」が語尾につくことは少ない、という違いもある。

おもしろいと感じるのは「ユーモアの心」であり、同時に人を寄せないバリアを作ってしまう。そのバリア内でさらに「笑い」による絆が生まれ、さらに孤立状態になってしまう。

4 課題研究とのつながり

自分たちはこれまで「良い関係」を意識して研究を進めてきた。自分の好きなこと、目標、夢などを明らかにすることで、ともに努力できそうな人などといった良い関係を保てそうな人を見つけようとするべきだと考えてきた。しかし討論の中で、良い関係を意識しすぎると、そのような人ばかりにこだわりを持ってしまうことになり、一部の人を排除することになりかねない、というご指摘を頂いた。このことについてもう一度考え直し、どのようにしてバランスを保っていくかを改めて結論付けることで、これからの課題研究につなげていきたい。



5 感想

様々な学部の方にお越しいただき、あらゆる視点からより深く学ぶことができた。新しい「笑い」の考えを知り、衝撃を受けることも多くあった。(菅野佑志)

地域別や国ごとの「笑い」に対する考え方や、心理学的な面での「笑い」の効果のお話も伺い新しい学びが多かった。また、関西と関東におけるメールのやり取りでの違いのような身近なお話もうかがい、自分の立場に当てはめて考えることもできた。(石塚凱晴)

笑い与健康というテーマについて深く話し合うことができ、新しい視点を得ることもできたので良かった。(松元康志)

笑いに関する幅広いお話を伺うだけではなく、私たちが行う研究の進め方についての適切なアドバイスもいただき、今後の参考にすることができた。(海老名帆夏)

歴史を踏まえた笑いの地域性のお話や、紙一重な関係を持っているポジティブな笑いとはネガティブな笑いについての話が印象的だった。(高橋孝太)

笑い与健康には直接的ではなく間接的なつながりがあることなど、自分たちの仮説とは違ったことを多く学ぶことができた。また、自分たちで発表をして質問を受けることで、考えを深めることもできた。(吉田可奈)

笑いについていろいろな方面から考えを聞くことができた。関西と関東では笑いの違いがあると改めて知ることができて面白く感じた。(菅野航平)

※研修報告は原文のまま

今回の勉強会はわれわれ笑学研究所にとっても良い経験となった。なによりも彼ら彼女らが「笑い」というテーマに真摯に向き合い、その重要性、必要性を感じているということが素晴らしく、本学の学生もこうあってほしいものだとつくづく実感した2日間であった。



福島高校のグループ発表
(A・B班 2018. 10. 24)



笑学研究所所員との意見交換
(C班 2018. 10. 25)

門真市大学教員リレー講座 「人と社会を元気にする笑いーユーモアの心理学」

追手門学院大学笑学研究所所員、心理学部教授 浦 光博

門真市の主催する「大学教員リレー講座」は市と包括連携協定を締結している複数の大学の教員が、市民を対象に地域におけるボランティア活動や町づくりの参考になるような講義を行うものである。2018年度の第3回講座「人と社会を元気にする笑いーユーモアの心理学」を所員の浦 光博が担当した。

笑いにはいくつもの効用がある。たとえば、人を心身ともに健康にする、人と人とを結ぶ、社会を明るくする、などなど。このほかにも多くの効用のあることがさまざまな研究によって明らかにされてきた。そういった笑いの効用について心理学の視点から考えようというのが本講座の狙いであった。

平成30年11月10日（土）、門真市市民プラザ3回セミナー室で開催された本講座では、大きく5つのテーマについてお話しさせていただいた。第1のテーマは「越境する笑いの力」である。笑いについての心理学研究が明らかにしてきたことの1つとして、私たちが生活する中で感じる違和感や緊張感が解消されたときに笑いが生じるというものがある。とすれば、笑いにはそのような違和感や緊張感を生む種々のズレや断裂、あるいは境界を越える力があるのではないかと、といったことについて具体例を挙げながら説明した。

第2のテーマは「おかしいから笑うのか、笑うからおかしいのか」である。直感的には「おかしいから笑う」のように思えるが、これも心理学の研究によれば、笑いがおかしさを誘発することも示されてきた。興味深い研究例の1つとして紹介したのが、うつ病患者の眉間のしわを皮膚下ボトックス注射によって無くすと気分改善につながることを示した研究である。表情が明るくなれば気分も明るくなるということである。

第3のテーマは「笑いは人間関係の潤滑油」である。これについても具体的な研究例を紹介した。街角で見知らぬ人に調査協力を依頼する際、依頼者が笑顔で近づいた場合には50.4%の人が笑顔を返したのに対して、無表情で近づいた場合には33.3%しか笑顔を返さなかった。さらに、笑顔になった人たちのうち31%の人びとが調査に応じてくれたのに対して、笑顔にならなかった人のうち協力依頼に応じた人は23%にとどまった。自分の笑顔が他者の笑顔を生み、それが協力的な関係性の構築につながるということである。



これらの研究例が示すことは、とにかく笑顔になることの重要性である。笑顔が人の気分をポジティブにし、それが他者の笑顔を引き出す。その笑顔は他者の気分をポジティブにする。このような笑顔とポジティブ気分の連鎖は人と社会を元気にする大きな原動力となると言える。

とは言うものの、「さあ、みなさん笑いましょう」と言われたからといって全ての人が笑えるわけではない。そこから第4のテーマ「そもそも人はなぜ笑うのか」が問われることになる。最初に述べたように、笑いの前提としてズレや違和感があり、それらを解消することが笑いを生むとすれば、緊張や違和感を解消できる条件の有無が、人が笑うか笑わないかを左右することが考えられる。講座では、この条件として経済的な豊かさと対人関係の豊かさを取り上げた全国規模の調査研究の結果を報告した。この研究によれば、貧しい人よりも豊かな人が、そして孤独な人よりも孤独でない人の方がよく笑うことが示された。しかし、このような傾向には地域差が認められた。関西人は、全国的な傾向とは異なり、経済的、対人的な豊かさ貧しさにかかわらず笑うことが示されたのである。

そうであるとすれば、「関西人はなぜ笑うのか」という新たな疑問が生まれてくる。これが第5のテーマであった。このテーマについても、全国規模の調査結果を報告した。この調査は人びとの対人的な環境の特徴を調べることを目的としたものであった。自分自身の周囲に「温かな人」「有能な人」「他人を笑わそうとする人」がそれぞれどれくらいいるかという問うたところ、「温かな人」と「有能な人」については地域差がなかったのに対して、「他人を笑わそうとする人」は他地域に比べて関西において多いと評価されていたのである。

これらの結果は、関西人のコミュニケーションスタイルの中に「人と社会を元気にする笑い」の要素が多く含まれていることを示唆している。さらにこれは、地域ボランティアや町づくりの活動においても、人付き合いを通じて笑顔とポジティブ気分の連鎖が続くことを示唆するものである。この特長を生かす取り組みが、地域活性化に向けての活動をより豊かなものにするだろうと結論づけた。



門真市
主催

大学教員リレー講座

～地域におけるまちづくりについて～

門真市と包括連携協定を締結している各大学から、市民の皆さんを対象に、地域における市民公益活動（ボランティア等）やまちづくりのご参考となるような講義を実施します。

地域の方、市民の皆さんの新たな気づきにつながると思いますので、お誘いあわせの上、お気軽にご参加ください！

※参加費は無料です！申込等の詳細は裏面でご確認ください。



市イメージキャラクター
「ガラスケ」



第1回

日時：10月23日(火)午後7時～8時30分

場所：門真市役所別館3階第2会議室

「地域貢献の捉え方と関わり方」

講師：中野 謙 氏(大阪国際大学経営経済学部経済学科准教授)

地域貢献のために何をすべきか、また、その活動の持続性をどのように確保すべきか。こうした問題意識から、「持続性のある地域貢献型ビジネス」をテーマに、皆さんと地域貢献の方法を考えます。



第2回

日時：10月31日(水)午後7時～8時30分

場所：門真市役所別館3階第2会議室

「まちを知って地震に備えるー自分・家族・地域ができることー」

講師：榎 愛 氏(摂南大学理工学部住環境デザイン学科准教授)

門真市で大地震発生！その時、皆さんがいつも通っている道はどのような状況になると思いますか？地震発生を防ぐことはできませんが、備えることで被害を減らすことはできます。門真市の地図を使って、地震発生後の様子を想像しながら、私たちが事前にできる備えについて考えましょう。



第3回

日時：11月10日(土)午前10時～11時30分

場所：門真市民プラザ3階セミナー室

「人と社会を元気にする笑いーユーモアの心理学ー」

講師：浦 光博 氏(追手門学院大学心理学部心理学科教授)

笑いにはいくつもの効用があります。人を元気にします。人と人とを結びます。社会を明るくします。そんな笑いの効用について心理学の視点から考えていきます。



第4回

日時：12月1日(土)午前10時～11時30分

場所：門真市民プラザ3階セミナー室

「乳幼児の心を育むために」

講師：根本 真弓 氏(大阪樟蔭女子大学学芸学部心理学科准教授)

子どもの心と発達に関する最新の理論をわかりやすく解説し、臨床心理士やキッズカウンセラーとしての経験を踏まえて、子どもの主体性を尊重しつつ情緒的な絆を育む乳幼児期の親子関係についてお話しします。

門真市主催 大学教員リレー講座 チラシ

活動報告

「満員御礼」

——「落語鑑賞会」を振り返って

追手門学院大学笑学研究所副所長、国際教養学部教授 木村 英樹

「ドン、ドン、ドンと来い、ドン、ドン、ドゥと来い♪」——平成最後の年の瀬。冬至を間近に控えた晴れの日の昼下がり。追大・学生会館の大ホールに今年もまた威勢の良い一番太鼓が鳴り響きました。

笑学研究所では研究活動および教育活動の一環として、昨年度に引き続き落語鑑賞会を開催しました。演者には、今年度も米朝事務所のご協力を得て、桂慶治朗さん、桂よね吉さん、桂団朝さんのお三方をお迎えしました。

日時：2018年12月21日（金）3限（13時20分～14時50分）

会場：追手門学院大学・学生会館大ホール

開催の趣旨

笑学研究所では、設立以来、「若者の『笑い』の実態および動向の探求」を研究テーマの一つに掲げ、これまでもいくつかの試みに取り組んできました。昨年度に続く今回の落語鑑賞会の開催もその一つです。開催の主たる目的は、一つには、研究のための基礎作業として、学生を対象に落語鑑賞についてのアンケート調査を行うこと、一つには、日頃寄席には縁遠く、落語を視聴する機会にも乏しい学生諸君に、落語の実演に接する場を設け、落語を知る、あるいは落語に親しむ機会を与えることにあります。

年度ごとのアンケート調査を定点観測として捉えるという意図から、今回も演者はすべて桂米朝一門の噺家さん；演目も三席；アンケート調査の対象も社会学部在籍の一年生200余名；上演時間も金曜3限の90分というように、昨年度の鑑賞会と同様の上演環境を設定しました。

なお、今回は、笑いの研究と教育の場を学内に留めず、広く社会にも開くことを企図し、茨木市、茨木商工会議所、茨木観光協会にご後援をいただき、地域の住民のみなさんにもご来場いただきました。お蔭をもちまして、当日、会場はほぼ満席。文字通り盛況のうちに幕を閉じることができました。ご協力、ご後援をいただいた方々に、この場をお借りしまして、心より御礼申し上げます。



す。

以下、鑑賞会の模様を簡単に振り返ります。

いざ、開演！

一番太鼓に続き、開演間近の二番太鼓も鳴り止んだところで、高垣教授（笑学研究所所長）が登場。緞帳の前で、開演の挨拶、鑑賞会開催の趣旨説明、さらには客席の学生諸君への注意事項を述べ、退場。おもむろに緞帳が上がって、いよいよ開演。開口一番、陽気な「石段」の出囃子に乗って登場したのは桂慶治朗さん。

演目は、おなじみの、と言いたいところではあるが、落語を視聴するのは今日が初めてという9割以上の学生にとっては決しておなじみでない「子ほめ」。そのあたりの事情を十分に心得た慶治朗さん、予め初心者向けのやさしいマクラを仕込まれたと見えて、まずは落語の歴史、演技の形態、噺の構成など、ミニ・レクチャーさながらの丁寧な解説から入り、続けて駄洒落を使った極々短い「にわかオチ」の小噺を矢継ぎ早に繰り出す。「鳩がなんか落としていったなあ。」「ふーん（糞）。」「先生、校庭で遊んでもいいですか?」「うん、どうじょう（運動場）。」「お前、もしかして卓球部か?」「ピンポン!」などなど。

それにしてもマクラとはよく考えたものだと改めて思い知らされる。落語会の空気に不慣れたため「笑い」が「声」にならない学生たちの緊張が、慶治朗さんのマクラが進むにつれて徐々に緩み始め、小噺が「にわかオチ」から「考えオチ」に移る頃には、会場のあちこちから遠慮がちな笑い声が聞こえ出す。アイスブレイクなるコミュニケーションの方略は決して今に始まったわけではなく、噺家たちは疾うの昔から心得ており、その手法を芸の域にまで高め、「マクラ」というかたちで仕立て上げたのである。恐るべし、先人の知恵。

さて、慶治朗さん、観客の緊張がやや緩んだとみるや、ピシャリと拍子木をひと打ち。「こんにちはあ!」「おお、おまはんかいな。ま、まあ、こっちい上がり」と、絶妙の呼吸で本編に入る。学生たちの落語への習熟度の浅さと自らの持ち時間を適度に見計らい、スリムに削り込んだ「子ほめ」を、まことにテンポよく、歯切れのよい口調できっちりと語って、お後と交替。

入れ替わり、はんなりと「祇園小唄」の出囃子に乗って、桂よね吉さんの登場。まずは、冒頭にあった高垣先生の学生向けの「嚴重注意」をネタに聴衆の笑いを引き出す。主催者である高垣教授への謝辞を織り込みつつ、学生にうってつけの教師ネタでいきなり聴衆を掴もうとする、その臨機応変のサービス精神に芸歴20余年の技量とゆとりが垣間見える。

慶治朗さん同様、よね吉さんも初心者の聴衆を気遣いつつ、一方では、彼らの微妙な反応を半ば楽しむかのように、次々と小ネタを並べて会場を「温め」に掛かる。東京駅のポスターには「痴漢は立派な犯罪です」とあるところを、大阪・曾根崎署前のポスターには「チカン、アカン!」と書いてある。かと思えば、上野動物園のトラの檻には「危険ですから、あまり近寄りすぎないください」と注意書きがあるが、天王寺動物園のトラの檻には、ひと言「噛みます!」とある。一事が



学生たちの顔に笑顔が浮かぶ。尊ぶべし、熟達の芸！

慶治朗さん、よね吉さん、団朝さん、お疲れさまでございました。ありがとうございました。



写真：落語鑑賞会の様子（左より 桂慶治朗 氏、桂よね吉 氏、桂団朝 氏）



「落語鑑賞会」特別観覧

～プロの落語を生で見せてみませんか？～

社会学部「社会文化論基礎2」の授業です。履修生以外の学生および一般の方も観覧いただけます。落語家3名による豪華プログラム。ぜひプロによる生の落語をお楽しみください！

日時：2018年**12月21日（金）3限**
(13:00開場 13:20～開演)

場所：追手門学院大学 学生会館 大ホール
(茨木市西安威2-1-15)

※鑑賞後にアンケートへのご協力をいただく場合があります。

定員：160名 (先着順)

出演：桂慶治朗 桂よね吉 桂団朝
かつら けいじろう かつら よねきち かつら だんちょう
三味線・寺西美紀



桂慶治朗



桂よね吉



桂団朝

★お申込み方法★

下記のメールフォームからお申込み下さい。

<https://ws.formzu.net/dist/S47636222/>

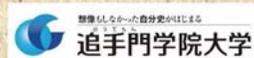
QRコードから
メールフォームに
アクセスできます！



主催・問合せ：追手門学院大学 笑学研究所
showgaku@otemon.ac.jp TEL.072-665-5024

協力：株式会社 米朝事務所

後援：茨木市、茨木商工会議所、茨木市観光協会



ミニ公開講座～笑う門には福来る “話べたさん”のためのコミュカアップ塾

追手門学院大学笑学研究所所員、国際教養学部講師 広瀬 依子

2018年10月27日、将軍山祭の企画の一環として、当研究所特別企画〈ミニ公開講座～笑う門には福来る “話べたさん”のためのコミュカアップ塾〉を開催した。

コミュカ＝コミュニケーション能力は、近年、日常生活の中で重視されるようになってきている。人間は一人では生きていけないのだから、コミュカに長けているに越したことはない。特に言葉、会話はコミュカの大きな割合を占める。

しかし、人と話すのが苦手だ、自分の考えを述べるのが下手だという人もいる。そんな人たちにエールと笑いを送ろうというのが今回の企画である。ゲスト講師は松原タニシさん、にしね・ザ・タイガーさん。いずれも人と会話することができなかった経験を持つ、松竹芸能所属のお笑いタレントである。さらに、漫才作家の藤田曜さんにコメンテーターとして加わっていただいた。司会は高垣伸博所長がつとめた。

松原さんはテレビ番組の企画で、これまでに6か所の事故物件（自殺者があつたり殺人事件が起こった住居）で暮らし、現在も継続中。その体験をネタとして披露するほか、刊行した著書も売れ行き好調で、注目を浴びている。そんな松原さんだが、ほとんど人と会話をしなかった時期がある。面白い人たちを求めて入学した高校で、自分の考える面白さと他者の考える面白さが違うことに気づく。それが理由で、高校3年間は誰とも話さないと決めたという。

にしねさんには思春期の引きこもり経験がある。もともと元気で明るい子どもだったが、中学2年生の時、ダウンタウン・松本人志の著書に学級委員をする子はおもしろくない、ということが書かれているのに影響を受け、人と話すことを止めた。高校は1週間で中退、以後引きこもりになった。対人恐怖になり、人とどう接していいのかわからない。しかし、他者と接することなく生きていくことはできない。自分は死ぬしかないのか？ 自問自答を続けた。その時、死ぬのだったら、以前憧れていた芸人になってから死のうと決心したのが、今につながっている。

藤田さんからは、話すのが苦手なのになぜお笑いタレントになったのか、コミュニケーションのとり方について等の話題が、笑いを交えながら展開された。

講座の中で、にしねさんが、ピアノカをおでこで演奏する芸を見せた。しゃべらないことを長所にしたネタだという。この逆転の発想は他でも使われている。そのひとつ、トランプを使ったマジ



ックも披露された。マジックは手順が決まっており、話す内容もそれにのっとっている。流れに沿っていけば、嫌でも話上手になる。手順があるからしゃべれるという見解は、“話べた”だったからこそその発見であろう。

松原さんは〈事故物件住みます芸人〉と称されているが、これもコミュニケーションにつながっているという。いろんなところで「事故物件に住んでみてどうですか？」などと声をかけられるのである。この状況をプラスと受け取ってもらえてコミュニケーションに発展していくのは、芸人ならではの分析した。

藤田さんは、タレント養成所の講師の経験をふまえながらのコミュニケーション術を述べた。生徒に指導する時、ダメなところを先に指摘し、その後、いいところを話すのだという。後に話したことの方が記憶に残るため、当事者たちへの励ましになるからだ。さらに、相手が話しやすいようにすることも心がけているという。たとえば着ている服を褒めると、相手は喜ぶ。そして、どこで買ったのかを尋ねると会話が展開していく。

高垣所長からは、面白い・面白くない、しゃべるのが得意・苦手という判断基準はどこにあるのかという問題提起も行われた。参加者は社会人が多く、日常生活でのコミュニケーションを思い浮かべているのか、うなずきながら聴き入る姿が多く見られた。



公開講座の様子（左から高垣所長、松原タニシ氏、にしね・ザ・タイガー氏、藤田曜氏）



笑学研究所 特別企画!!

at.
將軍山祭

2018年 10月27日 土

申込み不要
参加費無料

15:00～(14:30開場)

当日直接会場に
お越しください

追手門学院大学 3106教室
(大阪府茨木市西安威2-1-15)



ミニ公開講座
～笑う門には福来る

“話べたさん”のための
コミュカ
アップ塾

ゲスト講師

松原タニシ、にしね・ザ・タイガー

講師は芸人！ 事故物件住みます芸人と
引きこもり経験を持つ芸人がやって来る?!
話下手…、人と話すことが苦手…、
そんな君に、エールと笑いを送ります!

松原タニシ

1982年、兵庫県生まれ。松竹芸能所属のピン芸人。
30歳から事故物件に住み始め、“事故物件住みます芸人”と
して活動。これまでに6軒の事故物件に住む。今年6月発売
の初の著書でこれまで事故物件に住んで体験した話などを
つづった「事故物件怪談 恠い・聞取り」(二見書房)が好評。

Twitter

@tanishisuki

松原タニシ



にしね・ザ・タイガー

1988年、三重県生まれ。松竹芸能所属のピン芸人。
引きこもり経験を経て、松竹芸能のお笑い養成所へ入所。
人前で緊張しない方法など、実体験を交えて就職セミナー
などでお伝えしています。
趣味は野球観戦(阪神タイガースファン)と特撮ヒーロー。

Twitter

@tora1boukenred

お問合せ 笑学研究所 TEL 072-665-5024 MAIL speech@otemon.ac.jp

主催 追手門学院大学・笑学研究所

協力 松竹芸能株式会社



想像もしなかった自分史がはじまる

追手門学院大学

ミニ公開講座「話べたさん」のためのコミュカアップ塾」チラシ

特色ある研究

笑都大阪の笑いは健在か？現代人が「笑う」形式の研究 ～追手門学院大学生の「笑い」に関する意識調査の結果と分析～

笑学研究所共同研究報告（文責：高垣伸博）

はじめに

昨年度の報告でも著したように、笑学研究所の目指すべき姿は『教育・文化のグローバル化に対応できるコミュニケーション力を備えた人材育成のための笑いとしの融合をめざした、総合的な学術研究所』であり、また、設立方針の中に「笑いを活用した教育プログラムの研究」がある。2016年度春学期から開講した「笑学入門」はその一環と言える。（2017年度、2018年度春学期も開講）

この授業の目的は学生が「笑い」への理解を深め、その必要性、効用を学びとり、それらを日常に取り込み、コミュニケーション力向上の一助にすることである。

残念ながら2019年春の新キャンパス開設による2キャンパス体制では、全学部全学年対象に開講することは叶わないので2018年度春学期が最後となったが、2019来年度以降この流れは国際教養学部国際日本学科「笑学コース」へと繋いでゆくつもりである。

この研究は「現代の若者」つまり追手門学院大学生の「笑い」に対する意識はどうかを経年調査することで追大生の「笑いの形式」、解りやすく言い変えるならば「笑いに関する最大公約数」を見出し、その分析結果を基にした「笑いを活用した教育プログラム」の開発が目的である。

調査方法

2016年度同様に、無記名による紙アンケートで合計24問を、主に5段階（1～5）の中からの選択回答方式と解答例からの選択、また自由記述も用意した。（最終頁アンケート用紙参照）

実施期間は2017年度内、追手門学院大学生（1～4年）377人（男性216人 女性150人 性別無回答11人）を対象に行った。

なお5段階選択方式の集計に関しては、4、5の回答はまとめて「当てはまる（積極派）」、1、2の回答はまとめて「当てはまらない（消極派）」として報告している。

また、報告書は2016年度の報告書をベースに2017年度調査分を比較した上で、両年度合算集計



も示しながら、分析報告を行っている。（※2016年度集計数字に一部誤りがあったので、2016年度分を2017年度アンケートデータと共にを改めて集計した。その集計データを基にしていることをお断りしておく。）

1、人間関係（コミュニケーション能力）と家庭環境

「あなたはよく喋るタイプですか？」（表①-a）との問いに「当てはまる」との回答は2016年は約46%、2017年も同様に約46%、2か年の平均46%で、半数弱は「よく喋るタイプ」だと自認していることが再確認できた。一方で「無口」に「当てはまる」と回答した学生が2016年は約26%であったが、2017年は約23%で若干少なかったものの、2か年平均は約25%、4分の1の学生が「無口」と自認しているということだ。

表①-a あなたはよく喋るタイプですか？

年	無口	1	2	3	4	5	よく喋る
		2016	19	105	134	152	
		3.90%	21.80%	27.80%	31.50%	14.90%	
2017		12	76	118	102	69	
		3.20%	20.20%	31.30%	27.10%	18.30%	
合計		31	181	252	254	141	
		3.60%	21.10%	29.30%	29.60%	16.40%	

では男女で違いはあるのだろうか。（表①-b）2か年平均で「よく喋る」のは男性が約42%、女性が約52%と女性のほうが10%上回っている。女性の方が「お喋り」ということか。一方で「無口」は男性が女性より約2%上回っていることがわかる。

表①-b あなたはよく喋るタイプですか？男女別

無口	1	2	3	4	5	よく喋る
	29.96%			41.85%		
【男性】	26	110	128	121	69	
【女性】	4	63	115	128	68	
	17.70%			51.85%		

では、友人とのコミュニケーションはどうだろうか。「友人とはよく喋りますか？」（表②-a）に「当てはまる」は2016年が約75%、2017年は約72%で若干少ないが、2か年平均は約74%。2か年での差はほとんど無い。男女別2か年平均（表②-b）でも女性が約6%高いものの、ともに7割を上回っている。



表②-a 友人とはよく喋りますか？

年	喋らない	1 2 3 4 5					喋る
		1	2	3	4	5	
2016		7	28	87	169	191	
		1.50%	5.80%	18.00%	35.10%	39.60%	
2017		9	17	80	122	149	
		2.40%	4.50%	21.20%	32.40%	39.50%	
合計		16	45	167	291	340	
		1.90%	5.20%	19.40%	33.90%	39.60%	

表②-b 友人とはよく喋りますか？男女別

性別	喋らない	1 2 3 4 5					喋る
		1	2	3	4	5	
【男性】		8.59%			71.10%		
		13	26	92	149	174	
【女性】		4.76%			77.20%		
		2	16	68	129	163	

では、より気心が知れている家族とはどうだろうか。「家族とよく喋りますか？」(表③-a)との問いに「当てはまる」と回答したのは2016年が約59%、2017年も約59%。追大生の約6割は家族と喋っている。

表③-a 家族とよく喋りますか？

年	喋らない	1 2 3 4 5					喋る
		1	2	3	4	5	
2016		23	56	118	149	136	
		4.80%	11.60%	24.50%	30.90%	28.20%	
2017		14	30	109	109	115	
		3.70%	8.00%	28.90%	28.90%	30.50%	
合計		37	86	227	258	251	
		4.30%	10.00%	26.40%	30.00%	29.20%	

この家族との関係性においては、男女差があるのではないだろうか。

そこで2か年平均での男女差の結果を見てみると(表③-b)女性が約70%と、男性より20%上回っていることがわかる。その裏づけとして、「家族と喋らない」は女性のほうが少ない。



表③-b 家族とよく喋りますか？男女別

喋らない	1	2	3	4	5	喋る
	17.18%			50.88%		
【男性】	26	52	145	137	94	
【女性】	10	30	74	111	153	
	10.58%			69.84%		

では、3の設問「友人とよく喋りますか？」の結果から、それぞれの関係性を2016年、2017年、2か年平均で考察してみる。

まず、「よく喋るタイプ」と自認している学生のうちで「友人とよく喋る」に「当てはまる」(表④)、つまり「よく喋り」「友人ともよく喋る」は2016年は約45%、2017年が43%、2か年平均では44%と、各年であまり差がないことがわかった。

表④ あなたはよく喋るタイプですか？×友人とはよく喋りますか？

2016		喋らない			喋る			
	Q1/Q3	1	2	3	4	5		
無口	1	7	2	4	2	4	27	
	2		18	40	38	9	5.60%	
	3		5	38	57	34		
	4		2	4	66	80	216	
よく喋る	5		1	1	6	64	44.80%	

2017		喋らない			喋る			
	Q1/Q3	1	2	3	4	5		
無口	1	5	2	3		2	18	
	2	3	8	32	29	4	4.77%	
	3	1	4	39	46	28		
	4		2	6	39	55	162	
よく喋る	5		1		8	60	43%	

合計		喋らない			喋る			
	Q1/Q3	1	2	3	4	5		
無口	1	12	4	7	2	6	45	
	2	3	26	72	67	13	5.24%	
	3	1	9	77	103	62		
	4		4	10	105	135	378	
よく喋る	5		2	1	14	124	44%	

また「よく喋るタイプ」と自認している学生のうちで「家族ともよく喋る」に「当てはまる」(表⑤)も同様に各年で差はなかった。



表⑤ あなたはよく喋るタイプですか？×家族とよく喋りますか？

2016		喋らない			喋る			
	Q1/Q4	1	2	3	4	5		
無口	1	8	4	4		3	35	
	2	4	19	30	41	11	7.26%	
	3	4	12	48	44	26		
	4	3	18	26	48	57	160	
よく喋る	5	4	3	10	16	39	33.20%	

2017		喋らない			喋る			
	Q1/Q4	1	2	3	4	5		
無口	1	5	1	4	1	1	21	
	2	5	10	28	21	12	5.57%	
	3	2	8	48	33	27		
	4	1	5	19	42	35	129	
よく喋る	5	1	6	10	12	40	34.20%	

合計		喋らない			喋る			
	Q1/Q4	1	2	3	4	5		
無口	1	13	5	8	1	4	56	
	2	9	29	58	62	23	6.52%	
	3	6	20	96	77	53		
	4	4	23	45	90	92	289	
よく喋る	5	5	9	20	28	79	33.60%	

「友人とも家族ともよく喋る」（表⑥）も同様の結果となり、追大生の50%は「友人とも家族ともよく喋る」と言える。半面「友人とも家族とも喋らない」という心配な学生が3%弱存在する。



表⑥ 友人とはよく喋りますか？×家族とよく喋りますか？

2016		喋らない					よく喋る	
	Q3/Q4	1	2	3	4	5		
喋らない	1	6	1					15
	2		8	9	9	2		3.12%
	3	1	16	46	16	7		
	4	9	17	34	82	27		251
よく喋る	5	7	14	28	42	100		52.18%

2017		喋らない					よく喋る	
	Q3/Q4	1	2	3	4	5		
喋らない	1	4		2	1	2		9
	2	2	3	5	6	1		2.39%
	3	1	5	49	18	7		
	4	4	14	35	44	25		189
よく喋る	5	3	8	18	40	80		50.13%

合計		喋らない					よく喋る	
	Q3/Q4	1	2	3	4	5		
喋らない	1	10	1	2	1	2		24
	2	2	11	14	15	3		2.79%
	3	2	21	96	34	14		
	4	13	31	69	126	52		440
よく喋る	5	10	22	46	82	180		51.22%

人間の成長に大きくかかわるのが家庭環境であることは言うまでもない。そこで、追大生が自分の家庭をどう感じているのか。

「楽しい家庭ですか？」(表⑦) という問いに「当てはまる」と回答した学生が2016年は約61%、2017年は約64%、2か年平均で約62%という結果である。

表⑦ 楽しい家庭ですか？

2016		思わない					楽しい家庭
		1	2	3	4	5	
		23	53	110	170	126	
		4.80%	11.00%	22.80%	35.30%	26.10%	

2017		思わない					楽しい家庭
		1	2	3	4	5	
		15	31	91	127	113	
		4.00%	8.20%	24.10%	33.70%	30.00%	

合計		思わない					楽しい家庭
		1	2	3	4	5	
		38	84	201	297	239	
		4.40%	9.80%	23.40%	34.60%	27.80%	

では「よく喋るタイプ」に「当てはまる」学生のうち、どれくらいの人数が「とても楽しい家庭」に「当てはまる」のか。(表⑧) これも2か年の結果はほぼ同様で、2か年平均約34%の学生が「当てはまる」つまり「自分はよく喋り」「とても楽しい家庭だ」ということである。



表⑧ あなたはよく喋るタイプですか？× 楽しい家庭ですか？

2016		思わない			楽しい家庭			
	Q1/Q5	1	2	3	4	5		
無口	1	8	2	3	3	3	32	
	2	3	19	27	39	17	6.64%	
	3		12	50	49	23		
	4	8	13	22	65	44	162	
よく喋る	5	4	7	8	14	39	33.60%	

2017		思わない			楽しい家庭			
	Q1/Q5	1	2	3	4	5		
無口	1	5	1	1	3	2	26	
	2	4	16	20	20	16	6.90%	
	3	3	5	38	41	31		
	4	1	6	25	42	28	127	
よく喋る	5	2	3	7	21	36	33.70%	

合計		思わない			楽しい家庭			
	Q1/Q5	1	2	3	4	5		
無口	1	13	3	4	6	5	58	
	2	7	35	47	59	33	6.75%	
	3	3	17	88	90	54		
	4	9	19	47	107	72	289	
よく喋る	5	6	10	15	35	75	33.60%	

では「家族とよくしゃべり」「楽しい家庭」に「当てはまる」と答えた学生はどのくらいいるのか。(表⑧)

2016年に比べて2017年のほうが若干少なかったが誤差の内か、2か年平均約52%の学生が「家族とよくしゃべり」「楽しい家庭」に「当てはまる」と答えた。

わずか2か年のデータではあるが、各年で大きな差は見受けられない。この結果だけで、敢えて恐れずに判断すると「家族とよく喋り、楽しい家庭に育つとよく喋る人になる」と言うことができる。



表⑨ 家族とよく喋りますか？×楽しい家庭ですか？

2016		思わない			楽しい家庭			
	Q4/Q5	1	2	3	4	5		
喋らない	1	9	12	1	1		45	
	2	9	15	20	10	2	9.34%	
	3	2	19	61	30	6		
	4	3	6	20	93	27	247	
喋る	5		1	8	36	91	51.24%	

2017		思わない			楽しい家庭			
	Q4/Q5	1	2	3	4	5		
喋らない	1	10	2	1		1	29	
	2	2	15	10	3		7.69%	
	3		9	61	31	8		
	4	2	4	17	67	19	197	
喋る	5	1	1	2	26	85	49.60%	

合計		思わない			楽しい家庭			
	Q4/Q5	1	2	3	4	5		
喋らない	1	19	14	2	1	1	74	
	2	11	30	30	13	2	8.61%	
	3	2	28	122	61	14		
	4	5	10	37	160	46	444	
喋る	5	1	2	10	62	176	51.69%	

さて、この研究は「若者の笑いに対する意識調査」ではあるが、その目的は「コミュニケーションに役立つ笑い（の理解力）を身に付ける」ためのテキスト作成である。ここでいうコミュニケーションとは1対1のコミュニケーションというまでもなく、プレゼンテーション、つまり大勢の前で「喋る」ことでもある。

半数弱の追大生が「よく喋るタイプ」だと自認しているが、「あなたは大勢の前で喋るのが得意ですか？」（表⑩-a）との問いに、「当てはまる」は2016年が約19%、2017年は18%、平均してわずか18%強の学生しか大勢の前で喋る自信を持っていないのである。一方、人前で喋るのが苦手な学生も各年大差なく、平均で6割弱の学生が「人前で喋るのは苦手」なのである。

表⑩-a あなたは大勢の前で喋るのは得意ですか？

2016		苦手					得意
		1	2	3	4	5	
		144	129	118	66	25	9.3%
		29.90%	26.80%	24.50%	13.70%	5.20%	

2017		苦手					得意
		1	2	3	4	5	
		110	103	96	48	20	9.7%
		29.20%	27.30%	25.50%	12.70%	5.30%	

合計		苦手					得意
		1	2	3	4	5	
		254	232	214	114	45	10.0%
		29.60%	27.00%	24.90%	13.30%	5.20%	

ちなみに2か年平均の男女差を見てみると（表⑩-b）男性のほうが「得意」と答えた割合が6%高く、一方で「苦手」の割合は女性のほうが約8%高い。つまり、女性のほうが人前に出ると控え



めになるということだ。

表⑩-b あなたは大勢の前で喋るのは得意ですか？男女別

苦手	1	2	3	4	5	得意
	51.10%			21.37%		
【男性】	115	117	125	67	30	
【女性】	132	107	81	44	14	
	68.70%			15.30%		

そんな中「よく喋るタイプ」かつ「大勢の前で喋るのが得意だ」(表⑩) という頼もしい学生が2016年は約17%存在したが、果たして2017年は微減の15%、「よく喋り、人前で喋ることが得意」な学生は平均約16%である。ここを伸ばすことが重要な課題である。

表⑩ あなたはよく喋るタイプですか？×あなたは人前で喋るのは得意ですか？

2016		苦手			得意		
	Q1/Q2	1	2	3	4	5	
無口	1	18	1				107
	2	62	26	15	2		22.20%
	3	35	52	38	7	2	
	4	19	45	46	40	2	80
よく喋る	5	10	5	19	17	21	16.60%

2017		苦手			得意		
	Q1/Q2	1	2	3	4	5	
無口	1	9	1	1		1	76
	2	45	21	9		1	20.20%
	3	32	45	32	7	2	
	4	16	28	37	18	3	57
よく喋る	5	8	8	17	23	13	15.10%

合計		苦手			得意		
	Q1/Q2	1	2	3	4	5	
無口	1	27	2	1		1	183
	2	107	47	24	2	1	21.30%
	3	67	97	70	14	4	
	4	35	73	83	58	5	137
よく喋る	5	18	13	36	40	34	15.90%

「大勢の前で喋るのが得意だ」とは微妙に異なるが、人間関係を築く上である程度重要な要素であり、「積極性」の表われでもあるのが「目立ちたがり」と言う性格である。

そこで「あなたは目立ちたがり屋ですか？」(表⑩-a) という設問に、2016年は約17%、2017年は19%、2か年平均17.5%と「目立ちたがり屋」の存在は20%にも届かない結果である。



表⑫-a あなたは目立ちたがり屋ですか？

2016	控え目	1	2	3	4	5	目立ちたがり
		104	148	148	61	21	
		21.60%	30.70%	30.70%	12.70%	4.40%	
2017	控え目	1	2	3	4	5	目立ちたがり
		71	109	129	48	20	
		18.80%	28.90%	34.20%	12.70%	5.30%	
合計	控え目	1	2	3	4	5	目立ちたがり
		175	257	277	109	41	
		20.40%	29.90%	32.20%	12.70%	4.80%	

この「目立ちたがり屋」の男女差はどうだろうか。(表⑫-b) そこで2か年平均の結果を見てみると、女性のほうが5%ほど低いのが、男女で大きな差は無いようだ。一方、「控え目」のほうはより男女差が少なく、共に約半数を占めている。

表⑫-b あなたは目立ちたがり屋ですか？ 男女別

控え目	1	2	3	4	5	目立ちたがり
	48.68%			19.82		
【男性】	93	128	143	64	26	
【女性】	73	123	127	41	14	
	51.85			14.55		

さて約60%が「家族とよく喋る」追大生であるが「よく喋る楽しい家庭」における「笑い」はどのようなだろうか。

「家族を笑わせますか？」(表⑬) との間に「当てはまる」と答えたのが2か年平均で約46%、半数弱が「家族を笑わせる」のである。しかし「楽しい家庭」と答えた約60%と比べると10%強少ないことになる。

表⑬ 家族を笑わせますか？

2016	笑わせない	1	2	3	4	5	笑わせる
		42	85	127	152	76	
		8.70%	17.60%	26.30%	31.50%	15.80%	
2017	笑わせない	1	2	3	4	5	笑わせる
		24	61	126	103	63	
		6.40%	16.20%	33.40%	27.30%	16.70%	
合計	笑わせない	1	2	3	4	5	笑わせる
		66	146	253	255	139	
		7.70%	17.00%	29.50%	29.70%	16.20%	

では「家族を笑わせる」のはどんな学生なのか。

当然「よく喋る」に「当てはまり」かつ「家族を笑わせる」に「当てはまる」と言うことであ



り、それに該当する学生は2016年が全体の約31%であった。(表⑭) 2017年は約27%の学生が「よく喋り、家族を笑わせる」と答えた。2か年平均は30%弱で、この数字を多いと見るか、少ないと見るか。

表⑭ あなたはよく喋るタイプですか？×家族を笑わせますか？

2016		笑わせない			笑わせる			
	Q1/Q3	1	2	3	4	5		
無口	1	11	1	3	2	2	55	
	2	10	33	30	27	5	11.40%	
	3	5	26	60	30	13		
	4	9	18	27	73	25	149	
よく喋る	5	7	7	7	20	31	30.90%	

2017		笑わせない			笑わせる			
	Q1/Q6	1	2	3	4	5		
無口	1	4	3	3		2	39	
	2	10	22	24	13	7	10.34%	
	3	4	20	53	32	9		
	4	1	12	34	34	21	103	
よく喋る	5	5	4	12	24	24	27.30%	

合計		笑わせない			笑わせる			
	Q1/Q3	1	2	3	4	5		
無口	1	15	4	6	2	4	94	
	2	20	55	54	40	12	10.94%	
	3	9	46	113	62	22		
	4	10	30	61	107	46	252	
よく喋る	5	12	11	19	44	55	29.30%	

次に「家族とよく喋る」と「家族を笑わせる」の関係を見てみると(表⑮)、2016年は40%強、2017年もほぼ39%と、平均約40%の学生が家族とよく喋り、家族を笑わしている。



表⑮ 家族とよく喋りますか？×家族を笑わせますか？

2016		笑わせない			笑わせる			
	Q4/Q6	1	2	3	4	5		
喋らない	1	15	6	1	1		60	
	2	16	23	7	8	2	12.45%	
	3	8	33	55	17	5		
	4	1	22	48	66	12	195	
喋る	5	2	1	16	60	57	40.46%	

2017		笑わせない			笑わせる			
	Q4/Q6	1	2	3	4	5		
喋らない	1	10	1	1	1	1	32	
	2	7	14	7	2		8.49%	
	3	4	32	58	13	2		
	4		9	41	51	8	147	
喋る	5	3	5	19	36	52	38.99%	

合計		笑わせない			笑わせる			
	Q4/Q6	1	2	3	4	5		
喋らない	1	25	7	2	2	1	92	
	2	23	37	14	10	2	10.71%	
	3	12	65	113	30	7		
	4	1	31	89	117	20	342	
喋る	5	5	6	35	96	109	39.81%	

また「楽しい家庭」で「家族を笑わせる」(表⑯)となると2016年は約42%、2017年は約40%、平均で41%。この結果からも約40%の学生が楽しい円満な家庭環境であり、「楽しい家庭」環境が「よく喋り」「笑わせる」ことに影響を与えていることは間違いないといえよう。

表⑯ 楽しい家庭ですか？×家族を笑わせますか？

2016		笑わせない			笑わせる			
	Q5/Q6	1	2	3	4	5		
思わない	1	16	6		1		58	
	2	14	22	11	6		12.24%	
	3	6	34	51	14	5		
	4	4	19	47	86	14	202	
楽しい家庭	5	2	4	18	45	57	41.91%	

2017		笑わせない			笑わせる			
	Q5/Q6	1	2	3	4	5		
思わない	1	9	3	1	1	1	35	
	2	7	16	7		1	9.28%	
	3	6	19	54	11	1		
	4	2	17	39	56	13	151	
楽しい家庭	5		6	25	35	47	40.05%	

合計		笑わせない			笑わせる			
	Q5/Q6	1	2	3	4	5		
思わない	1	25	9	1	2	1	93	
	2	21	38	18	6	1	10.83%	
	3	12	53	105	25	6		
	4	6	36	86	142	27	353	
楽しい家庭	5	2	10	43	80	104	41.09%	



2、良好な人間関係を育む「笑い」

2-1 能動的な「笑い」

「笑う」という結果を引きだす能動的な行為、つまり「笑わせる」と言う行為に関して考えてみたい。

前項では「家族を笑わせますか？」という設問に関してふれたが、笑わす対象を「家族」に限定せずに「人を笑わせるのが得意ですか？」(表⑰-a) という設問にしたところ、2016年は「当てはまる」が18%弱であったが、2017年は約20%、2か年平均約19%。それに対して「当てはまらない」が2か年平均で約40%である。

「笑わせる」という能動的な日常行為に対して、対象が「ウケている」と判断するか「ウケていない」と判断するかによって「笑わせるのが得意か否か」の回答は迷うところであろう。

表⑰-a 人を笑わせるのは得意ですか？

年	苦手	1	2	3	4	5	得意
		77	125	195	61	24	
		16.00%	25.90%	40.50%	12.70%	5.00%	
年	苦手	1	2	3	4	5	得意
		38	103	160	49	27	
		10.10%	27.30%	42.40%	13.00%	7.20%	
合計	苦手	1	2	3	4	5	得意
		115	228	355	110	51	
		13.40%	26.50%	41.30%	12.80%	5.90%	

では男女差はどうであろうか。(表⑰-b) 2か年平均で見ると、「得意」は男性の92人に対して女性が64人で大きな差が出たが、一方の「苦手」に至ってはほぼ同率である。関西以外でアンケートを採ると、あるいは、関西圏以外の学生だけを対象にすると違った結果が出るのではないだろうか。

表⑰-b 人を笑わせるのは得意ですか？男女別

苦手	1	2	3	4	5	得意
	39.20%			20.30%		
【男性】	62	116	184	62	30	
【女性】	49	103	162	44	20	
	40.20%			16.90%		

では「よく喋る」と「人を笑わせる」こととの関係はどうなのか。「よく喋りかつ人を笑わせるのが得意」(表⑱) と自認する学生は2016年は約15%、2017年は微増の約16%、平均約15%。「よく喋る」ことは「笑わせる」ことの必要最低条件ではあるだろうが、言葉数が少なくても「笑



わせるのが得意」とい場合もあるだろう。しかし、やはり人を笑わせるには、日ごろから喋ることが必要だということである。

表⑩ あなたはよく喋るタイプですか？×人を笑わせるのは得意ですか？

2016		苦手			得意		
	Q1/Q12	1	2	3	4	5	
無口	1	13	1	3	2		90
	2	39	37	24	4	1	18.67%
	3	14	43	69	7	1	
	4	8	37	75	26	6	70
よく喋る	5	3	7	24	22	16	14.52%

2017		苦手			得意		
	Q1/Q12	1	2	3	4	5	
無口	1	6	3	2		1	60
	2	20	31	22	1	2	15.92%
	3	7	40	60	9	2	
	4	4	17	54	21	6	61
よく喋る	5	1	12	22	18	16	16.18%

合計		苦手			得意		
	Q1/Q12	1	2	3	4	5	
無口	1	19	4	5	2	1	150
	2	59	68	46	5	3	17.46%
	3	21	83	129	16	3	
	4	12	54	129	47	12	131
よく喋る	5	4	19	46	40	32	15.25%

因みに「人を笑わせるのが得意」に「当てはまる」と回答した学生（3の回答も含む）への「あなたは漫才で言うとどちらのタイプ（ボケ&ツッコミ）ですか？」（表⑩-a）という設問に対して興味深い結果が出た。

表⑩-a あなたは漫才で言うとどちらのタイプですか？

2016	ツッコミ	1	2	3	4	5	ボケ
		43	64	137	58	35	
		12.80%	19.00%	40.70%	17.20%	10.40%	
2017	ツッコミ	1	2	3	4	5	ボケ
		29	52	102	60	34	
		10.50%	18.80%	36.80%	21.70%	12.30%	
合計	ツッコミ	1	2	3	4	5	ボケ
		72	116	239	118	69	
		11.70%	18.90%	38.90%	19.20%	11.20%	

2016年では「ツッコミ」タイプの1と2、「ボケ」タイプの4、5が31.8%対27.6%、2017年が29.3%対34%、2か年平均はなんと30.6%（188人）対30.4%（187人）とほぼ同率（同数）であった。

この結果は偶然であろうが、追大生が漫才コンビを組む際に役割分担で揉めることはなさそう



だ。

因みに男女差はあるのだろうか。(表⑱-b) 2 ヶ年平均の男女別でも、それぞれでツッコミとボケの割合はほぼ同等であった。(※前出の表⑱-a と表⑱-b の人数が合わないのは、性別未回答があるため)

表⑱-b あなたは漫才で言うとどちらのタイプですか？

ツッコミ	1	2	3	4	5	ボケ
	31.13%			31.74%		
【男性】	42	62	124	63	43	
【女性】	28	52	106	51	25	
	30.53%			29.01%		

さて「笑わせる」にも様々な手法があるが、日常的に「冗談」が言えるかどうか重要である。そこで「あなたはよく冗談を言うタイプですか？」(表⑳) との設問に対して「当てはまる」と答えた学生は2016年が約55%、2017年は約54%で半数以上の学生が「冗談を言うタイプ」と自認している。

表⑳ あなたはよく冗談を言うタイプですか？

2016	言わない	1	2	3	4	5	よく言う
		19	62	136	162	102	
		4.00%	12.90%	28.30%	33.70%	21.20%	
2017	言わない	1	2	3	4	5	よく言う
		10	46	118	123	79	
		2.70%	12.20%	31.40%	32.70%	21.00%	
合計	言わない	1	2	3	4	5	よく言う
		29	108	254	285	181	
		3.40%	12.60%	29.60%	33.30%	21.10%	

では「よく喋る」に該当し「よく冗談を言う」にも該当する学生はどうだろう。(表㉑) 2016年も2017年も大差なく、2 ヶ年平均約35%、つまり追大生の3分の1強が「よく喋り、しかもよく冗談をいう」のである。



表⑳ あなたはよく喋るタイプですか？×あなたはよく冗談を言うタイプですか？

2016		言わない			よく言う			
	Q1/Q7	1	2	3	4	5		
無口	1	6	2	3	3	5	47	
	2	8	31	41	21	4	9.77%	
	3	1	15	57	44	16		
	4	3	12	27	79	31	171	
よく喋る	5	1	2	8	15	46	35.60%	

2017		言わない			よく言う			
	Q1/Q7	1	2	3	4	5		
無口	1	1	4	4		3	32	
	2	7	20	26	19	4	8.51%	
	3	1	12	54	40	10		
	4	1	5	24	53	19	126	
よく喋る	5		5	10	11	43	33.51%	

合計		言わない			よく言う			
	Q1/Q7	1	2	3	4	5		
無口	1	7	6	7	3	8	79	
	2	15	51	67	40	8	9.22%	
	3	2	27	111	84	26		
	4	4	17	51	132	50	297	
よく喋る	5	1	7	18	26	89	34.66%	

では前出の「家族を笑わせますか？」と「よく冗談を言うタイプですか？」の関係はどうだろうか。(表㉒) 2016年が約35%、2017年が約33%、平均で約34%が「当てはまる」と答えた。

表㉒ あなたはよく冗談を言うタイプですか？×家族を笑わせますか？

2016		笑わせない			笑わせる			
	Q7/Q6	1	2	3	4	5		
言わない	1	7	6	4	2		45	
	2	7	25	17	12	1	9.36%	
	3	8	25	58	36	9		
	4	11	19	36	71	25	168	
よく言う	5	9	9	12	31	41	34.93%	

2017		笑わせない			笑わせる			
	Q7/Q6	1	2	3	4	5		
言わない	1	3	1	4	2		30	
	2	3	23	16	3	1	7.98%	
	3	8	16	58	29	7		
	4	5	17	35	48	18	124	
よく言う	5	5	3	13	21	37	32.98%	

合計		笑わせない			笑わせる			
	Q7/Q6	1	2	3	4	5		
言わない	1	10	7	8	4	4	75	
	2	10	48	33	15	2	87.51%	
	3	16	41	116	65	16		
	4	16	36	71	119	43	292	
よく言う	5	14	12	25	52	78	34.07%	

では「よく冗談を言うタイプ」で「人を笑わせるのが得意」な学生は果たしてどれくらいいるのか。(表㉓) これに「当てはまる」つまり「よく冗談を言い、人を笑わせるのが得意」な学生は



2016 年が約 15%、2017 年が約 17%、平均で約 16% となった。

表㉓ あなたはよく冗談を言うタイプですか？×人を笑わせるのは得意ですか？

2016		苦手					得意				
	Q7/Q12	1	2	3	4	5					
言わない	1	15	2	2							67
	2	19	31	9	3						13.93%
	3	21	46	60	8	1					
	4	11	37	86	26	2					73
よく言う	5	10	9	38	24	21					15.18%

2017		苦手					得意				
	Q7/Q12	1	2	3	4	5					
言わない	1	7	2	1							44
	2	14	21	10	1						11.70%
	3	10	40	58	7	3					
	4	4	33	59	22	5					65
よく言う	5	3	6	32	19	19					17.29%

合計		苦手					得意				
	Q7/Q12	1	2	3	4	5					
言わない	1	22	4	3							111
	2	33	52	19	4						12.95%
	3	31	86	118	15	4					
	4	15	70	145	48	7					138
よく言う	5	13	15	70	43	40					16.10%

2-2 受動的な「笑い」

能動的な「笑い」である「笑わせる」行為に対して、受動的な「笑い」とは、意図的に「笑わされた」あるいは何らかの要因によって「笑わされた」結果としての、「笑う」という行為のことである。この「笑う」という行為に関して学生はどう自己分析しているのか。

「あなた自身はよく笑うタイプですか？」(表㉔-a) との問いに、2 ヶ年平均で約 73% が「当てはまる」と回答している。

表㉔-a あなた自身はよく笑うタイプですか？

2016		笑わない					笑う				
		1	2	3	4	5					
		5	37	91	157	179					73%
		1.10%	7.90%	19.40%	33.50%	38.20%					

2017		笑わない					笑う				
		1	2	3	4	5					
		3	30	63	119	154					76%
		0.80%	8.10%	17.10%	32.20%	41.70%					

合計		笑わない					笑う				
		1	2	3	4	5					
		8	67	154	276	333					73%
		1.00%	8.00%	18.40%	32.90%	39.70%					

コミュニケーションを良好にするための「笑い」は、「笑わせる」だけでは駄目で、相手へのリアクションとしての「笑う」行為も重要である。

「よく笑う」に関しては、女性の方が当てはまる率が高いように思うのだが(表㉔-b) 2 ヶ年平均



均ではやはり女性の方が12% 高い結果が出ている。女性の方がよく笑うのだ。

表⑭-b あなた自身はよく笑うタイプですか？男女別

笑わない	1	2	3	4	5	笑う
	11.79%			67.80%		
【男性】	6	46	90	152	147	
【女性】	2	17	56	117	179	
	5.12%			79.78%		

また時と場合によっては「愛想笑い」も必要である。そこで「あなたは人の冗談に対して好意的に笑う方ですか？」(表⑮-a)と聞いてみた。

2016年は「当てはまる」のが約62%、2017年は約70%、平均で約66%の学生が「好意的に笑う」と言う結果だ。

表⑮-a あなたは人の冗談に対して好意的に笑う方ですか？

2016	好意的でない	1	2	3	4	5	好意的
		7	31	141	183	114	
		1.50%	6.50%	29.60%	38.40%	23.90%	
2017	好意的でない	1	2	3	4	5	好意的
		4	12	98	158	104	
		1.10%	3.20%	26.10%	42.00%	27.70%	
合計	好意的でない	1	2	3	4	5	好意的
		11	43	239	341	218	
		1.30%	5.00%	28.10%	40.00%	25.60%	

「好意的に笑う」に男女差はあるだろうか。(表⑮-b) 男性が約64%、女性が約69%で、大きな差はなかった。

表⑮-b あなたは人の冗談に対して好意的に笑う方ですか？

好意的でない	1	2	3	4	5	好意的
	6.65%			63.64%		
【男性】	7	23	134	181	106	
【女性】	4	19	92	151	108	
	6.15%			69.25%		

因みに「笑う」ことと「笑わせる」ことの関係性はどうなのか。(表⑯)

「自分もよく笑い、かつ、人を笑わせるのが得意」に「当てはまる」のは2か年平均で約17%であった。



表⑳ あなた自身はよく笑うタイプですか？×笑わせるのは得意ですか？

2016		苦手					得意	
	Q9/Q12	1	2	3	4	5		
笑わない	1	3			1	1		33
	2	17	13	6	1			7.04%
	3	18	27	42	3	1		
	4	19	48	67	22	1		74
笑う	5	19	32	77	32	19		15.78%

2017		苦手					得意	
	Q9/Q12	1	2	3	4	5		
笑わない	1	2		1				24
	2	10	12	6		2		6.50%
	3	5	24	30	3	1		
	4	8	32	58	18	3		68
笑う	5	12	32	63	27	20		18.43%

合計		苦手					得意	
	Q9/Q12	1	2	3	4	5		
笑わない	1	5		1	1	1		57
	2	27	25	12	1	2		6.80%
	3	23	51	72	6	2		
	4	27	80	125	40	4		142
笑う	5	31	64	140	59	39		16.95%

3、芸能と「笑い」

3-1 古典芸能への理解

古典芸能を理解することは文化の継承はもとより、伝統的に受け継がれた「言葉遊び」や「洒落」を理解することであり、日本固有の伝統的な「笑い」つまり「日本の普遍的な笑い」が解るようになるということである。

そこで、古典芸能と言われるものに対する経験（接触）の差異を調べたのだが（表㉗）、「歌舞伎」「文楽（2016年のみ）」はほぼ同数、「能・狂言」も大差なく、見たことが「よくある」に「当てはまる」のは1割にも満たないが、「落語」になると「当てはまる」が2割強に増える。

「古典芸能」に対する苦手意識、固定観念もあるだろうが、実際に授業で「古典落語」を見せても、「面白いところもあるが言葉が難しく理解できないところが多い」という感想が目につく。



表⑳ あなたは以下に挙げた芸能を授業（過去も含めて）以外で見たことがありますか？

			1	2	3	4	5	
2016	落語	全くない	149(31.1%)	112(23.4%)	107(22.3%)	94(19.6%)	17(3.5%)	よくある
	能・狂言	全くない	269(56.4%)	93(19.5%)	72(15.1%)	37(7.8%)	6(1.3%)	よくある
	歌舞伎	全くない	273(57.4%)	95(20%)	70(14.7%)	30(6.3%)	8(1.7%)	よくある
	文楽	全くない	274(57.4%)	95(20%)	71(14.9%)	31(6.5%)	6(1.3%)	よくある
2017	落語	全くない	150(39.8%)	63(16.7%)	85(22.5%)	62(16.4%)	17(4.5%)	よくある
	能・狂言	全くない	236(62.6%)	65(17.2%)	53(14.1%)	16(4.2%)	7(1.9%)	よくある
	歌舞伎	全くない	247(65.5%)	58(15.4%)	52(13.8%)	13(3.5%)	7(1.9%)	よくある
合計	落語	全くない	299(34.9%)	175(20.4%)	192(22.4%)	156(18.2%)	34(4%)	よくある
	能・狂言	全くない	505(59.1%)	158(18.5%)	125(14.6%)	53(6.2%)	13(1.5%)	よくある
	歌舞伎	全くない	520(61%)	153(17.9%)	122(14.3%)	43(5%)	15(1.8%)	よくある

3-2 「笑い」の傾向

現在も大阪では「よしもと新喜劇」が健在であるが、今の若者は「お笑い番組」と言えば「トークバラエティー番組」を想定するのではないだろうか。

そこで追大生の「笑い」の好みを聞いてみた。

まずは「以下の3つの「笑い」パターンの中であなたが好きなものはどれですか？」(表㉘)

「笑い」のパターン例が3つだけなので一概には言えないが、「一発ギャグ系」や「音楽ネタ系」は好みの差が大きく、それに比べて「ダジャレや言葉の掛け合い系」を好む者が半数を超えている。

表㉘ 以下の3つの「笑い」パターンの中であなたが好きなものはどれですか？（複数回答）

			2016	2017	合計
1	一発ギャグ系		109	114	223
2	音楽ネタ系		113	86	199
3	ダジャレや言葉の掛け合い系		312	251	563

次の設問「あなたは下に挙げた「お笑い」の中でどれが一番好きですか？」(表㉙)の結果「漫才」「バラエティー」「コント」の順で好まれている。これらは「ダジャレや言葉の掛け合い系」であり、表㉘の結果を裏付けているのではないだろうか。



表㉘ あなたは下に挙げた「お笑い」の中でどれが一番好きですか？

		2016	2017	合計
1	落語	13(2.75%)	6(1.65%)	19(2.27%)
2	漫才	181(38.7%)	130(35.8%)	311(37.2%)
3	コント	107(22.6%)	73(20.1%)	180(21.5%)
4	ピン芸人(1人芸)	10(2.11%)	9(2.48%)	19(2.27%)
5	バラエティー番組	138(29.2%)	129(35.5%)	267(31.9%)
6	特になし	24(5.07%)	16(4.41%)	40(4.78%)

4、言葉と笑い

前項の「笑い」の傾向を受ける形で、ほんの数例ではあるが言葉遊びの理解度を試してみた。昔ながらの「しゃれことば」と単純な「ダジャレ」である。(表㉙)

「次に挙げた冗談(言葉遊び)のうち、面白いとおもったものに◎、理解できたが面白くないものに○、理解できなかったものに×を記入してください」

結果は以下の通りである。

表㉙次に挙げた冗談のうち、面白いと思ったものに◎、理解できたが面白くないものに○

1、ウサギの逆立ちや！(小言を言われたときに使う)→耳が痛い

	面白いと思った	理解できたが面白くない	理解できなかった
2016	6(1.41%)	107(25.1%)	314(73.5%)
2017	7(2.13%)	90(27.4%)	232(70.5%)
合計	13(1.72%)	197(26.1%)	546(72.2%)

2、ゆがんだ松の木や！(急いでいるときに使う)→走(はし)らにやならぬ

	面白いと思った	理解できたが面白くない	理解できなかった
2016	11(2.58%)	95(22.3%)	320(75.1%)
2017	5(1.52%)	68(20.6%)	257(77.9%)
合計	16(2.12%)	163(21.6%)	577(76.3%)

3、A「男の子が池にはまったらどんな音がする？」 B「ほっちゃ〜ん！」

	面白いと思った	理解できたが面白くない	理解できなかった
2016	64(15.0%)	278(65.0%)	86(20.1%)
2017	51(15.6%)	221(67.6%)	55(16.8%)
合計	115(15.2%)	499(66.1%)	141(18.7%)

4、A「隣の家に囲いができたで」 B「へー」

	面白いと思った	理解できたが面白くない	理解できなかった
2016	40(9.35%)	290(67.8%)	98(22.9%)
2017	32(9.76%)	226(68.9%)	70(21.3%)
合計	72(9.52%)	516(68.3%)	168(22.2%)



5、A「この井戸は深いか？」 B「ほんのソコまでや」

	面白いと思った	理解できたが面白くない	理解できなかった
2016	49(11.4%)	249(58.0%)	131(30.5%)
2017	50(15.4%)	197(60.6%)	78(24.0%)
合計	99(13.1%)	446(59.2%)	209(27.7%)

擬音系のダジャレには理解を示すものの「面白くない」という反応であり、古典的な所謂「言いぐさ」は理解ができないようだ。特に「耳が痛い」ということ自体理解できていないのであり、また、ウサギの逆立ちを真面目にとらえずぎて、洒落に繋がらないと考えられよう。

いずれにせよ、これだけの例で軽々に判断はできないが、日常の環境の変化や語彙の多少が「言葉遊び」に大きく影響を与えていることは間違いないであろう。特に多くの語彙のストックで同音異義を楽しむ「駄洒落」の様なものは、今後ますますバリエーションが少なくなってゆくであろう。

では追大生は果たして「人を笑せられるようになりたい」(表③) と思っているのだろうか。

表③ 人を笑せられるようになりたい

2016	思わない	1	2	3	4	5	なりたい
		34	58	147	140	100	
		7.10%	12.10%	30.70%	29.20%	20.90%	
2017	思わない	1	2	3	4	5	なりたい
		19	47	104	102	98	
		5.10%	12.70%	28.10%	27.60%	26.50%	
合計	思わない	1	2	3	4	5	なりたい
		53	105	251	242	198	
		6.20%	12.40%	29.60%	28.50%	23.30%	

2016年約50%、2017年は約54%、半数以上の学生が「人を笑わせるようになりたい」と望んでいる。基本的には「笑わせたい願望」はあると考えてよい。

さて、最後の設問は「なんでも『笑い』にしようとする大阪気質は？」(表③) 好きか嫌いか。2016年回答数482人中約58%の278人が「大好き」、2017年の回答数377人中約61%225人が「大好き」、2ヵ年平均約59%が「なんでも『笑い』にしようとする大阪気質」が好きなのである。



表㉓ なんでも「笑い」にしようとする大阪気質は？

2016	嫌い	1	2	3	4	5	大好き
		21	53	127	144	134	
		4.40%	11.10%	26.50%	30.10%	28.00%	

2017	嫌い	1	2	3	4	5	大好き
		18	18	110	110	115	
		4.90%	4.90%	29.60%	29.60%	31.00%	

合計	嫌い	1	2	3	4	5	大好き
		39	71	237	254	249	
		4.60%	8.40%	27.90%	29.90%	29.30%	

因みに、この設問に対する「出身地別回答」を付録として載せておく。

年度	大阪出身	大阪以外	合計
2016年	252	230	482
2017年	191	186	377
合計	443	416	859

なんでも「笑い」にしようとする大阪気質は？府下・府外比較

2016	嫌い	1	2	3	4	5	大好き
		【大阪出身】	9(3.59%)	25(9.96%)	70(27.9%)	67(26.7%)	
	【大阪以外】	12(5.26%)	28(12.3%)	57(25.0%)	77(33.8%)	54(23.7%)	

2017	嫌い	1	2	3	4	5	大好き
		【大阪出身】	7(3.70%)	9(4.76%)	58(30.7%)	54(28.6%)	
	【大阪以外】	11(6.04%)	9(4.95%)	52(28.6%)	56(30.8%)	54(29.7%)	

合計	嫌い	1	2	3	4	5	大好き
		【大阪出身】	16(3.64%)	34(7.73%)	128(29.1%)	121(27.5%)	
	【大阪以外】	23(5.61%)	37(9.02%)	109(26.6%)	133(32.4%)	108(26.3%)	

まとめ

今回は2016年度の結果と2017年度の結果を見比べながら考察したが、すべての設問に関して大きな差は見られなかった。同じ設問をベースに経年調査を続けて行きつつ、新たな設問を加えることによって、目的達成のための手立てを見出すことができれば幸いである。

今後、願わくば大阪のみならず関西圏、中京圏、関東圏と調査の範囲を広げることも視野に入れたい。



追手門学院大学・笑学研究所「笑いに」関するアンケート
(2017年実施)

このアンケートは、追手門学院大学「笑学研究所」が本学の学生を対象に行う「若者の笑い」に関する意識調査です。「笑う」という行動、「笑わせる」という行為など、円滑なコミュニケーション活動にとって大変重要な要素である「笑い」に関する研究の資料として、またコミュニケーションスキルアップのためのプログラム開発に活かすべく実施しますので、よく考えて回答にご協力ください。

男性	女性	年齢	歳	学部	出身地	都・道・府・県	市
----	----	----	---	----	-----	---------	---

- Q1 あなたはよく喋るタイプですか？ 無口 1 2 3 4 5 よく喋る
- Q2 あなたは大勢の前で喋るのは得意ですか？ 苦手 1 2 3 4 5 得意
- Q3 友人とよく喋りますか？ 喋らない 1 2 3 4 5 よく喋る
- Q4 家族とよく喋りますか？ 喋らない 1 2 3 4 5 よく喋る
- Q5 楽しい家庭ですか？ そうは思わない 1 2 3 4 5 とても楽しい家庭だ
- Q6 家族を笑わせますか？ 笑わせない 1 2 3 4 5 笑わせる
- Q7 あなたはよく冗談を言うタイプですか？ 言わない 1 2 3 4 5 よく言う
- Q8 (Q7で3, 4, 5を選んだ方のみお答えください)
Q冗談をいう場合、その場の空気をよく考えますか？ 考えない 1 2 3 4 5 よく考える
- Q9 あなた自身はよく笑うタイプですか？ 笑わない 1 2 3 4 5 よく笑う
- Q10 (Q9で3, 4, 5を選んだ方のみお答えください)
Qどういときによく笑いますか？なるべく具体的にお答えください

- Q11 あなたは目立ちたがり屋ですか？ 控えめ 1 2 3 4 5 目立ちたがり
- Q12 人を笑わせるのは得意ですか？ 苦手 1 2 3 4 5 得意
- Q13 (Q12で3, 4, 5を選んだ方のみお答えください)
Qあなたは漫才で言うどちらのタイプですか？ ツッコミ 1 2 3 4 5 ポケ
- Q14 (Q12で1, 2, を選んだ方のみお答えください)
Qあなたは人を笑わせたいと思いますか？ 思わない 1 2 3 4 5 笑わせたい
- Q15 あなたは人の冗談に対して好意的に笑う方ですか？ 好意的ではない 1 2 3 4 5 好意的
- Q16 あなたは以下に挙げた芸能を授業(過去も含めて)以外で見たことがありますか？
1, 落語 全くない 1 2 3 4 5 よくある
2, 狂言 全くない 1 2 3 4 5 よくある
3, 歌舞伎 全くない 1 2 3 4 5 よくある
- Q17 以下の3つの「笑い」パターンの中であなたが好きなものはどれですか？(複数回答可)
1, 一発ギャグ系 2, 音楽ネタ系 3, ダジャレや言葉の掛け合い系
- Q18 あなたは下に挙げた「お笑い」の中でどれが一番好きですか？
1, 落語 2, 漫才 3, コント 4, ビン芸(一人芸) 5, パラエティー番組 6, 特になし
- Q19 あなたは吉本新喜劇を見ますか？(テレビ、舞台どちらでも可) 全く見ない 1 2 3 4 5 よく見る
- Q20 (Q19で3, 4, 5を選んだ方のみお答えください)
Q好きな新喜劇の役者あるいはギャグを具体的にお答えください

- Q21 あなたが好きな「お笑い芸人」ベスト3を挙げてください
1, _____ 2, _____ 3, _____
- Q22 次に挙げた冗談(言葉遊び)のうち、面白いと思ったものに◎、理解できたが面白くないものに○、理解できなかったものに×を口の中に記入してください
1, ウサギの遺失ちや！(小言を言われたときに使う)→耳が痛い
2, ゆがんだ松の木や！(急いでいるときに使う)→走(は)しらにやならぬ
3, A「男の子が池にはまったらどんな音がする？」 B「ぼっちゃ〜ん！」
4, A「隣の家に聞いてきたで？」 B「へー」
5, A「この井戸は深いか？」 B「ほんのソコまでや」
- Q23 人を笑せられるようになりたい そうは思わない 1 2 3 4 5 とてもりたい
- Q24 なんでも「笑い」にしようとする大阪気質は？ 嫌い 1 2 3 4 5 大好き

ご協力ありがとうございました
追手門学院大学・笑学研究所

2018 年度笑学研究所活動記録

2018 年

- 4 月13日～7 月20日（金曜3 限）笑学入門開講（全15 回）
- 4 月12日 第1 回所員会議 於：本学研究所
- 5 月10日 第2 回所員会議 於：本学研究所
- 6 月14日 第3 回所員会議 於：本学研究所
- 7 月20日 第4 回所員会議 於：本学研究所
- 9 月13日 第5 回所員会議 於：本学研究所
- 8 月1 日、8 日、22日、29日 川西市生涯学習短期大学（於：川西市アステ市民プラザ）
「大阪の笑い文化」講師：広瀬依子
- 10月11日 第6 回所員会議 於：本学研究所
- 10月24日～25日 福島県立福島高等学校2 年生20 名による研修
- 10月27日 ミニ公開講座「話べたさん」のためのコミュニカアップ塾（3 号館3106 教室）
ゲスト講師：松原タニシ、にしね・ザ・タイガー（松竹芸能所属）
- 11月10日 門真市「大学教員リレー講座」（於：門真市民プラザ）
「人と社会を元気にする笑いーユーモアの心理学ー」講師：浦光博
- 12月9日 日本笑い学会オープン講座（於：関西大学梅田キャンパス）
「放送演芸手法の功罪」講師：高垣伸博
- 12月13日 第7 回所員会議 於：本学研究所
- 12月21日 「落語鑑賞会」開催（学生会館 社会学部1 年生 社会文化論基礎合同授業）
出演 桂慶治朗「子ほめ」 桂よね吉「皿屋敷」 桂団朝「秘伝書」

2019 年

- 1 月17日 第8 回所員会議 於：本学研究所
- 2 月10日 日本笑い学会オープン講座（於：関西大学梅田キャンパス）
「越境する笑いの力ーユーモアの行動力学」講師：浦光博
- 2 月21日 第9 回所員会議 於：本学研究所

メディア掲載

- ・JR 東海 新幹線グリーン車内誌『ひととき3 月号』（2019. 2. 20 発行）

2018年度笑学研究所所員および研究員一覧

所長	高垣 伸博	国際教養学部 教授（マスコミ論、放送演芸論）
副所長	木村 英樹	国際教養学部 教授（言語学、中国語学）
所員	浦 光博	心理学部 学部長・教授（社会心理学）
所員	真銅 正宏	追手門学院大学 副学長、国際教養学部教授（日本近現代文学）
所員	広瀬 依子	国際教養学部 講師（上方芸能、伝統芸能）
所員	横田 修	社会学部 講師（演技・演劇教育論）
客員研究員	大坂 幸司	株式会社日本旅行勤務、追手門学院大学校友会理事
客員研究員	大谷 邦郎	グッドニュース情報発信塾塾長、NPO 法人発達障害を持つ大人の会（DDAC）監事、元・MBS ラジオ報道部長
客員研究員	木村 未来	元・読売新聞文化芸術部記者
客員研究員	瀬沼 文彰	西武文理大学兼任講師、桜美林大学非常勤講師、日本笑い学会理事
特別顧問	坂井東洋男	追手門学院大学学事顧問、元学長
特別顧問	西上 雅章	通天閣観光（株） 代表取締役社長、追手門学院大学客員教授

追手門学院大学笑学研究所規程

2015年9月4日

制定

(設置)

第1条 追手門学院大学（以下「本学」という。）に、笑学研究所（以下「研究所」という。）を設置する。

(目的)

第2条 研究所は、本学の総合大学としての学問的蓄積を生かし、人類の誇りうる能力であり文化である笑いを対象にした、総合的な学問研究を発展させることを目的とする。

(事業)

第3条 研究所は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 笑いとユーモアの文化に関する研究
- (2) 笑いを活用した教育プログラムに関する研究
- (3) 上方芸能に関する研究
- (4) 笑いに関する図書及び資料等の情報収集並びに提供に関する事。
- (5) 笑いに関する教材等の編纂並びに出版物の刊行に関する事。
- (6) 研究会および講演会・シンポジウム等の開催
- (7) その他研究所の運営に関する事。

(所長)

第4条 研究所に、所長を置く。

- 2 所長は、学長の推薦により常任理事会の議を経て学長が任命する。
- 3 所長は、研究所を代表し、研究所の運営を統括する。
- 4 所長の任期は、4月1日から2年間とし、年度の途中で任命された場合は、就任した年度の翌年度の4月1日から起算して2年を経過する日までを任期とする。ただし、再任を妨げない。

(副所長)

第5条 研究所に、副所長を置くことができる。

- 2 副所長は、所長の推薦により、学長が任命する。
- 3 副所長は、所長を補佐し、所長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 4 副所長の任期は、4月1日から2年間とし、年度の途中で任命された場合は、就任した年度の翌年度の4月1日から起算して2年を経過する日までを任期とする。ただし、再任を妨げず、所長の終期を超えることができない。

(所員)

第6条 研究所に、所員を置くことができる。

2 所員は、大学の専任教職員の中から、第2条の目的を達成するために必要な専門性を有する者を所長が推薦し、学長が委嘱する。ただし、任期は2年とし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第7条 研究所に、客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員は、学外の有識者の中から、第2条の目的を達成するために必要と判断される者を所長が推薦し、学長が委嘱する。ただし、任期は1年とし、再任を妨げない。

(特別顧問)

第8条 研究所に、特別顧問を置くことができる。

2 特別顧問は、所長の推薦により学長が任命する。

3 特別顧問は、研究所の事業推進について所長に助言等を与える。

(事務の所管)

第9条 研究所の事務は、研究・社会連携課の所管とする。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、大学教育研究評議会の議を経て学長が決定する。

附 則

この規程は、2015年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、2016年4月1日から施行する。

追手門学院大学笑学研究所年報 第4号

2019年3月30日発行

発行者：追手門学院大学笑学研究所

〒567-8502 大阪府茨木市西安威2丁目1番地15号

TEL：072-665-5024

印刷所：協和印刷株式会社

〒615-0052 京都市右京区西院清水町13

TEL：075-312-4010
